

  
Glee Club



第87回 同志社グリークラブ定期演奏会



## Doshisha College Song

One purpose Doshisha, thy name  
Doth signify one lofty aim  
To train thy sons in heart and hand  
To live for God and Native Land  
Dear Alma Mater sons of thine  
Shall be as branches to the vine  
Th' through the world we wander far and wide  
Still in our hearts thy precepts shall abide

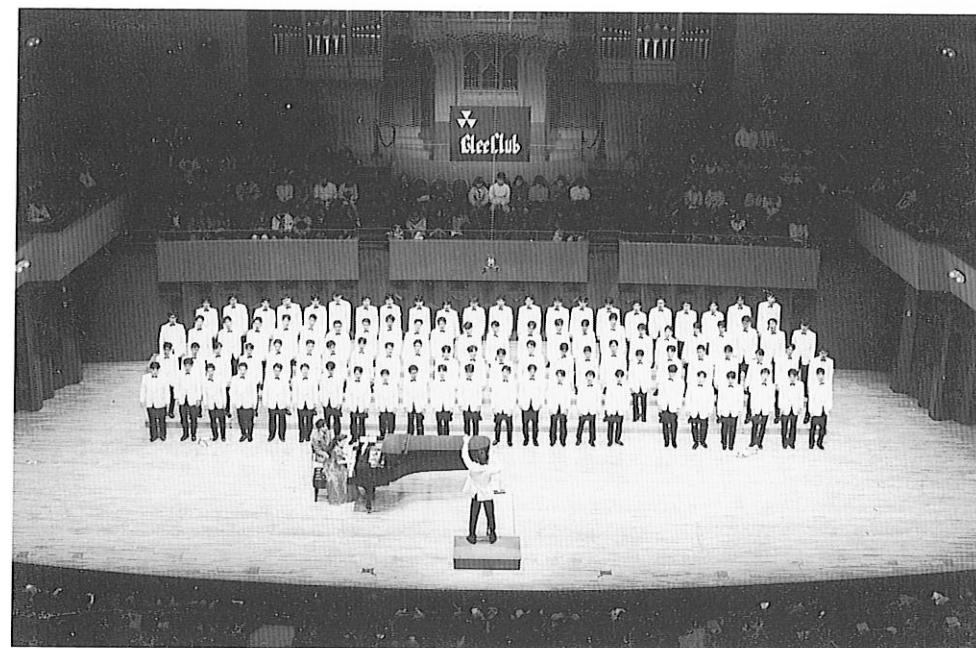
Still broader than our land of birth  
We've learned the oneness of our Earth  
Still higher than selflove we find  
The love and service of mankind  
Dear Alma Mater sons of thine  
Would strive to live the life divine  
That we may with increasing years have stood  
For God, for Doshisha and Brotherhood.



## 第 87 回

# 同志社グリークラブ定期演奏会

1991年12月18日(水) ザ・シンフォニーホール



## 御 挨拶

本日はお寒い中、又お忙しい中を第87回同志社グリークラブ定期演奏会に御来場いただきまして、誠に有り難うございます。

近年、世の中の流れと変化はめまぐるしいほど早く、時代の変化を日々感じさせられます。そのことは、部内に於いても同じであり、部員の価値観や考え方が日々変化していくのを感じながら、同志社グリーが前進していくのを見守っております。しかし、個々人の価値観はどのように変化しても、音楽に接する者として、皆それを素晴らしいものにしようという気持ちは全く同じです。今年も沢山のお客様の前でうたえることを心待ちにし、我が団のモットーである“聴衆と一体になった音楽づくり”を心に、練習を重ねて参りました。今宵のこのステージに立てることに大きな喜びを感じつつ、他団にはない“同グリの味”を、出来る限り発揮したいと思います。

最後になりましたが、愛情溢れる御指導を下さいます諸先生方、OBの皆様、そして本演奏会の開催に御尽力下さいました関係各位に、部員を代表して厚く御礼申し上げます。

同志社グリークラブ幹事長 風隼 武博

## 同志社総長 松山 義則

今年も同志社グリークラブ定期演奏会が、音楽を愛される多くの方々のご出席を得て開催されますことを、心からうれしく存じます。

同志社は1875年新島襄により設立され、本年創立 116周年を迎えましたキリスト教主義教育を基本とする、歴史と伝統を有する学園であります。現在は今出川、田辺、岩倉、香里に12の学校を設置する総合学園となりましたが、創立者新島襄の建学の精神を受け継ぎ、21世紀に向けてさらなる発展を期す所存であります。

同志社グリークラブも本年創立87周年を迎えました輝かしい伝統をもつ学生合唱団であります。同志社グリークラブは、献身的な諸先輩の努力によって築きあげられました。団員の諸君はこのすばらしい伝統を受け継ぎ、さらなる発展を期して日々研鑽を積み、皆さまのあたたかいご支援をいただいておりますことは大きなほりと存じます。

グリークラブはこれまでもアメリカ、中国、ヨーロッパ各国へ演奏に出かけ、かの地においても美しいハーモニーを披露して友好と親善を深めてまいりました。来年もヨーロッパへの演奏旅行が計画されており、国内のみならず海外での演奏を実施するなど幅広い活動を行っております。

音楽をこよなく愛するグリーの諸君は、本日の演奏をこの一年間の総決算と受け止め、すべての情熱を傾けて力いっぱい歌いあげてまいりましょう。昨年以上のすばらしい演奏となることを期待したいと思います。

どうか皆さまには同志社グリークラブの演奏に心耳を傾けていただき、今後とも変わらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、この演奏会の開催にご尽力いただいた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。



## 同志社グリークラブ顧問 澁谷 昭彦

毎年、この時期になると定期演奏会が行われる。定期演奏会是一年の総決算の場であり、日頃の練習の成果を披露する演奏会である。現役諸君にとっては、ここ一番の力の見せどころであり、それこそ渾身の力を振り絞ってこれに取り組んでいることであろう。この意味において、定期演奏会は、心して臨まなければならない特別の演奏会であり、決して単なる年中行事の一つであると考えられてはならないと思う。

しかしながら、定期演奏会は、また、アイデンティティーのあくなき追求と明確な提示の場、換言すれば、自己確認、自己主張の場でなければならない。したがって、同志社グリークラブとは何か、なぜ同志社グリークラブでなければならないのか、すなわち、「これぞ同志社グリークラブ」ということをはっきりと打ち出すことができなければ、定期演奏会は成功したことにはならない。

同志社の創立と同時に生まれた聖歌隊に端を発するグリークラブ116年の輝かしい歴史と伝統を踏まえ、その伝統を守り、それを越え、新たな伝統を創出するための歩みが、毎年行われる定期演奏会であると思う。定期演奏会は、したがって、グリークラブの過去、現在、未来を含むより大きな広がりをもつものでなければならないし、このような視点、視座に立って臨むべきものであろう。

それゆえに、定期演奏会は実際に演奏する現役諸君だけのものではなく、グリークラブに連なる関係者すべての努力をまたなければならない一大イベントである。現役諸君の健闘を祈ると同時に、先生方のご指導、先輩OB諸氏のご支援に感謝する次第である。もちろん、グリークラブの演奏を聴くためにお越しくくださった皆様方のお支えがなければ、演奏会の成功はありえないことは言うまでもない。

今宵の演奏会がどこまで上記の意味における定期演奏会にふさわしいものとなりうるか、楽しみにしている。



## 同志社グリークラブOB会会長 松本 寛二

## 《文化功老賞》

さて、おそくなったグリークラブへの原稿でも、とペンを取った瞬間、玄関のブザーがブーンと鳴った。誰だ、今頃、と思いつつ戸を開けると、若い郵便屋さんが立っていて、こう言った。「上の郵便受けに入らなかったの、持って来たんです。朝早くすみません…」と。本当に大きな封筒だ。手に取ると、何と、発信人は東京クローバークラブではないか。グリーへのメッセージを書こうとした瞬間に、東京のグリーOB達からのメッセージが届くなんて…。

文面を見ると、長年、グリークラブに、OBのクローバークラブに尽くされた方々に、文化功老賞を贈ることとした。11月3日、サントリー小ホールで記念の演奏会をした後、授与式をしたが、欠席されたので送ったというのである。クローバークラブのネクタイを多少アレンジしたタイ1本と受賞者15名の懐かしい古顔が、写真入りでかかれていた。思わず、何だこれは功老賞ではないかと、ひとりふき出してしまった。

とにかく、ステージでもパーティでも、どんな時でも、思わぬことをしてかすのは同志社のようなのだ。今夜の定演も、そんな明るい楽しい演奏会としてはいいもの、と思う。

つい先日、ブラハに行き、ドボルザークの生誕 150周年を記念する音楽祭の初日を聞いた。会場はブラハの大聖堂。出し物は、何と、初めて聞くレクイエムだった。6月とはいえ底冷えのする寒さだったが、余りのすばらしさに寒さも忘れて聞き入った。とくに合唱の美しさには圧倒されてしまった。同志社グリーが、ブラハで聞いたようなすばらしい合唱を聞かせてくれるのではないかと、とても楽しみだ。

大盛況を期待しながら。



## 関西学院グリークラブ

第87回同志社グリークラブ定期演奏会の御開催おめでとうございます。関学グリーンメン一同、心よりお祝い申し上げます。

貴団と私共は、日頃から東西四連、同関交歓演奏会、関西六連と、御一緒する機会も多く、また距離的にも近いという事から、お互いに良きライバル、良き友として切磋琢磨し合ってきました。そのような皆様の歌声を拝聴できますことは、私共関学グリーンメンにとりまして、このうえない喜びでございます。

今年の七月に六連合同曲『富士山』の練習を貴団と合同で行った時、貴団の合唱に賭ける意気込みと情熱に圧倒されそうになったのを覚えています。あの力強さが、同志社グリークラブのあの大胆かつ繊細なハーモニーを作り出しているのでしょう。今宵も、一年間の皆様のたゆまぬ努力の成果が遺憾なく発揮され、そのハーモニーで、私共の心を酔わせて下さいますことを期待致しております。年の瀬も迫り、にわかには慌たしくなってくるこの季節に、貴団の心温まる演奏が、会場の皆様一人一人の心を掴み、魅了することをごさいます。

最後になりましたが、本日の演奏会の御成功と、皆様の今後一層の御発展を、部員一同心よりお祈り申し上げます。



## 早稲田大学グリークラブ

同志社グリークラブの皆様、第87回定期演奏会の御開催を部員一同心よりお祝い申し上げます。

同グリの皆様は、離れていても心は通じ合える良き友であります。東西四連に参加する都度、ライバルとして素晴らしい演奏を我々に聴かせてくれる皆様。その後の打ち上げでは、一緒になって、お店で、道端で、横になって夜を明かしてくれる皆様。四連ビデオを拝見致しますと、合同ステージで我々と区別が付かないユニフォームを着用している皆様。住銀のCMでアエラと一緒に載った皆様。我々の定演での「縄文」を進化させ名演にした皆様。我々は、つくづく良き友を持ったものであると感動せずにはられません。

そんな皆様の心温まるハーモニーは、寒さをも吹き飛ばし、今宵会場を暖かく包み込んでくれることでしょう。皆様の心がひとつとなって我々の心を奪っていく瞬間、その瞬間を楽しみにしております。

この演奏会で一層、男声合唱のファンが増えることでしょう。同グリのファンが増えることでしょう。沢山の可愛い女の子が同グリの魅力に取りつかれることでしょう。我々は、それを指をくわえて観ているのではなく、新体制のもと一層精進し頑張っていくつもりであります。また四連で会いましょう。

最後になりましたが、今宵の演奏会の御成功と皆様の一層の御発展をお祈り申し上げます。



## 慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団

第87回定期演奏会の御開催を心よりお祝い申し上げます。

今年、史上初の東京・大阪ダブル公演となった四連でのグリーンメンたちの炎と燃えるような情熱そのものの歌声には、聴くものの心を深く、そして強く打つものがはっきりと感じられました。そんな熱くハートを焦がした日々が蘇ってくるようです。

あの日以来、半年もの時間を経て、今宵、心の底からこれが感動なんだと言えるハイレベルの演奏を体験できることは大きな喜びであります。音楽において、奥行き、深さ、遠近感を表現することはなかなか難しいものです。しかし、それを可能にしてしまう凄さがここにはあります。一人一人の対象への意志あるアプローチが恐ろしいまでに厳しく、ひたむきだからなのでしょう。そうした日々の真剣な練習から生み出されるみずみずしい感受性、創造力、天使のようなやさしさと、持ち前のA級のパワーが加わって、ホールに響きわたるハーモニーに、私共は静かに引き込まれてしまうのです。

いま始まる、スリリングで胸躍るシーンを前に、新たな覚醒を期待しつつ、今後益々の御活躍、御発展を心よりお祈り申し上げます。





DOSHISHA COLLEGE SONG

作 詩 W.M.Vories  
作 曲 Carl Wilhelm

I MISSA MATER PATRIS

Kyrie  
Gloria  
Sanctus  
Benedictus  
Agnus Dei

作 曲 Josquin des Prés  
編 曲 Elliot Forbes  
指 揮 永島 健一

II ヴェルディ・オペラ合唱曲集

- I 歌劇《ナブッコ》から  
ヘブライの捕虜たちの合唱  
「行け、わが思いよ、金色の翼に乗って」
- II 歌劇《トロヴァトーレ》から  
ジプシーの合唱（アンヴィル・コーラス）  
「朝の光がさしてきた」
- III 歌劇《十字軍のロンバルディア人》から  
十字軍兵士と巡礼の合唱  
「おお主よ、ふるさとの家々を」
- IV 歌劇《ドン・カルロ》から  
「ここに明けた、輝かしき喜びの日が」

作 曲 G.Verdi  
指 揮 岡田 司  
ピアノ 戎 洋子

INTERMISSION

III 男声合唱組曲「青いメッセージ」

- I 月蝕と花火序詩
- II 青い花
- III 婆さん蛙ミミミの挨拶
- IV 秋の夜の会話
- V サリム自伝
- VI ごびらっふの独白

作 詩 草野 心平  
作 曲 高嶋みどり  
指 揮 永島 健一  
ピアノ 長田 育忠

IV LIEBESLIEDER（「愛の歌」「新・愛の歌」より）

- I Rede, Mädchen, allzuliebes（答えよ乙女よ）
- II Am Gesteine rauscht die Flut（大波が岩辺に騒ぐ）
- III O die Frauen（おお女達よ）
- IV Sieh; Wie ist die Welle klar!（何と波が澄んでいることか）
- V Nachtigall, Sie singt so schön（夜鶯が綺麗に歌う）
- VI Ein dunkeler Schacht ist Liebe（愛は暗い坑）
- VII Wenn so lind dein Auge mir（君の瞳が優しく）
- VIII Ein kleiner, hübscher Vogel（小さな可愛らしい鳥が）
- IX Am Donaustrande（ドナウ河の岸辺に）
- X Nein, es ist nicht auszukommen（世人と親しむことはできぬ）
- XI Schlosser auf（さあ錠前師よ）
- XII Zum Schluß（結び）

作 詩 G.F.Daumer/J.W.Goethe  
作 曲 J.Brahms  
編 曲 福永陽一郎  
指 揮 畑中 良輔  
ピアノ 山本 優子  
長田 育忠



## MISSA MATER PATRIS

ジョスカン・デ・プレと「ミサ・マーテル・パトリス」

福永 陽一郎



JOSQUIN DES PREZ

15世紀から16世紀にかけて、フランドル地方、つまり今日のベルギー南部とそこに隣接する北フランスは、たいへんな音楽的繁栄をほこっていた。この時代を代表する音楽家を挙げるとすれば、ギヨーム・デュファイ、ヨハネス・オケゲム、ヤコブ・オブレヒト、アントワヌ・ブルーメル、クレメンス・ノン・パパ、ロランド・ラッス（オルランド・ラッソ）といった巨大な名前がちどころに並ぶのであるが、この人たちはみな、いわゆるフランドル楽派＝ネーデルランド楽派と呼ばれて、この地方の出身者であり、同時に当時の全ヨーロッパの主要な宮廷と教会で活躍した、音楽史上、不朽の名を止どめる大家たちである。ジョスカン・デ・プレも、そうしたフランドル楽派の代表的な作曲家の一人である。

ジョスカンは1440年頃、おそくとも1450年までに、今日のベルギー・フランスの国境地帯であるエイノー地方Hainautで生まれた。幼少の頃より聖カタン教会の会堂合唱児童となり、作曲法も学んだ。パリでオケゲムに師事したともいわれている。

1459年からイタリアへ行き、ミラノの聖堂の歌手となり、1473年以後は、ミラノ公ガレツォ・マリア・スフォルツァのカペラ歌手となり、さらにアスカニオ・スフォルツァ公にもつかえた。1486年から1494年にかけて、ローマのカペラ歌手となり、教皇インノケンティウス8世およびアレクサンドル6世につかえた。1501年から1503年にかけては、フランス王ルイ12世の宮廷で活躍、またイタリアのフェレラ大公エステ家の楽長にもなり、さらにフィレンツェ、モデナなどで活躍した後、1504年、故国フランドルへ帰った。皇帝マクシミリアン1世の要請で、コンデの町のノートル・ダム寺院の僧院長の地位につき、この地で晩年を過ごし、1521年8月27日に亡くなった。

ジョスカンの作品の数は多い。在世中に、イタリアのオッタヴィアーノ・ディ・ベトルッチによって、17曲ものミサ曲が出版されている。そのほか、モテットや讃歌（ヒムス）、詩篇などの宗教音楽が約90曲、世俗合唱曲が約70曲残されている。これらの作品は、作曲技法の熟達、表現の多様さ、内容の深さなどで、当時の音楽作品中、群を抜いた出来映えを示している。あらゆるポリフォニーの技法を駆使しながら、けっして技巧過多におちいらず、理想的な簡潔明確な形態をとっている。ジョスカンの作品が到達した芸術的水準を、レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画作品と比較されることは、それほど理不尽なことではない。また『他の音楽家たちは音に支配されているが、ジョスカンは音を支配し、自分の求めているところへ導いてゆく』とも評された。イタリアの有名なパレストリーナは、だいたい後代になって、ジョスカンの強い影響下に、すぐれた作品を作り出していったのである。

ジョスカン・デ・プレのミサ曲のうち、最も優れていると評判の高いのは、「ミサ・パンジェ・リングワ」である。ジョスカンの得意とした「パロディ・ミサ」であるが、この有名なミサは、題名のとおり、グレゴリア聖歌の「パンジェ・リングワ」の旋律を借用し、それをバラフレーズして、ミサ曲をつくり上げたものである。

「ミサ・マーテル・パトリス・エト・フィリア」も、同様にパロディ・ミサのひとつであるが、主旋律として借用された元の曲は、ジョスカンと同時代のやはり著名な作曲家であるアントワヌ・ブルーメルの三声部のモテット「マーテル・パトリス・エト・フィリア」で、このモテットをアメリカのシャーマー社から出版した音楽学者でハーヴァード・グリーンクラブの指揮者でもあったエリオット・フォーブス教授によれば、この曲は15世紀の合唱としてはごく珍しいことに、特別に男声合唱のために書かれているとのことである。従って、これを元にしたジョスカンのミサ曲も、現代の男声合唱に適合し易い形態で書かれている。おそらくは、カウンター・テナーからアルトもふくむ形での男声合唱のために書かれていると思われる。筆者は現段階でジョスカンの原譜を見ていない。

筆者がこのミサ曲を初めて知ったのは、1961年に、ハーヴァード大学のグリーンクラブの一度目の来日の折、京都で同志社グリーンとジョイント・コンサートを持ったのだが、その記念に、ハーヴァード・グリーの指揮者であったエリオット・フォーブス教授から署名入りの楽譜の贈呈を受けたときである。7月4日の日付がある。その演奏旅行で、ハーヴァード・グリーは、このミサ曲をレパートリーにしていたから、実際にも聴いたことになる。フォーブス教授自身の編集された楽譜である。

フォーブス教授は、アメリカでも有名な音楽史学者で、ベートーヴェンの権威である。「セイヤー（著）の“ベートーヴェンの生涯”の最終校訂版」という大きな著作があり、日本でも上下二冊分の分厚い訳書が出版されている。ハーヴァード・グリーンクラブの指揮者としては、アメリカ初期の巨大な指揮者であったアーチボルト・デヴィソン博士を次ぐ、実際的に二代目の指揮者であった。1974年の同志社グリーンクラブの渡米の際、ボストンにハーヴァードを訪れたときは、すでに引退されていた。

（第10回同志社グリーンクラブ・関西学院グリーンクラブ交歓演奏会プログラムより転載）

演奏にあたって

第60代学生指揮者 永島 健一

中世的な神の時代の終焉とともに始まったルネサンス時代において、芸術は精神的に自由な方向へと広がっていった。音楽芸術においても、次の時代への足がかりとなる様々な試みがなされ、とくに多声音楽は隆盛を極めた。ジョスカン・デ・プレの活躍した15世紀後半から16世紀初頭にかけては、中世的精神の名残はあったが、伝統的尊敬をあまり顧慮することなく、ずっと自由に教会音楽に貢献できた時代であった。彼によって、対位法はより巧妙になっていったが、技術的に精緻であるばかりでなく、力強く、美しい音楽が生み出されたのである。

定期演奏会でのミサ曲は、現役部員全員初体験であるが、シンフォニーホールの豊かな響きの中でポリフォニー音楽を演奏できることは、新たな音楽地平への貴重な体験になることと思う。なお、来年2～3月の第四回ヨーロッパ演奏旅行では、本山秀毅先生の指揮により、「Credo」を含めた全曲を演奏する予定である。

## Kyrie

Kyrie, eleison,  
Christe, eleison.  
Kyrie, eleison.

## あわれみの賛歌（キリエ）

主よ、あわれみたまえ。  
キリストよ、あわれみたまえ。  
主よ、あわれみたまえ。

## Gloria

Gloria in excelsis Deo.  
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.  
Laudamus te,  
Benedicimus te,  
Adoramus te,  
Glorificamus te,  
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.  
Domine Deus, Rex coelestis, Deus Pater omnipotens.  
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.  
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.  
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.  
Qui tollis peccata mundi, suscipe deprecationem nostram.  
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.  
Quoniam tu solus Sanctus, tu solus Dominus,  
tu solus Altissimus, Jesu Christe.  
Cum Sancto Spiritu, in gloria Dei Patris.  
Amen.

## 栄光の賛歌（グロリア）

天のいと高きところには神に栄光、  
地には善意の人に平和あれ。  
われら主をほめ、  
主をたたえ、  
主をおがみ、  
主をあがめ、  
主の大いなる栄光のゆえに（主に）感謝したてまつる。  
神なる主、天の王、全能の父なる神よ。  
主なる御ひとり子、イエズス・キリストよ。  
神なる主、神の小羊、父のみ子よ  
世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。  
世の罪を除きたもう主よ、われらの願いをききいれたまえ。  
父の右に座したもう主よ、われらをあわれみたまえ。  
主のみ聖なり。主のみ王なり。  
主のみいと高し、イエズス・キリストよ。  
聖霊とともに父なる神の栄光のうちに。  
アーメン。

## Sanctus

Sanctus, Sanctus,  
Sanctus, Dominus Deus sabaoth!  
Pleni sunt coeli et terra gloria tua.  
Hosanna in excelsis!  
Benedictus qui venit in nomine Domini,  
Hosanna in excelsis!

## 感謝の賛歌（サンクトゥス）

聖なるかな、聖なるかな  
聖なるかな、万軍の神なる主。  
主の栄光は天地にみつ。  
天のいと高きところにホザンナ。  
ほむべきかな、主の名によりて来たる者。  
天のいと高きところにホザンナ。

## Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:  
miserere nobis.  
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:  
dona nobis pacem.

## 平和の賛歌（アニュス・デイ）

世の罪を除きたもう主よ、  
われらをあわれみたまえ。  
世の罪を除きたもう主よ、  
われらに平安を与えたまえ。



## ヴェルディ・オペラ合唱曲集

## 曲目解説

## I, 歌劇《ナブッコ》第3幕からヘブライの捕虜たちの合唱〈行け、わが思いよ、金色の翼に乗って〉

1841年、ヴェルディは28歳にして3つめのオペラ《ナブコドノゾール（ナブッコ）》を完成させた。台本はテミストクレ・ソレーラ（1815-1882）によったもので、1842年3月9日に、ミラノのスカラ座で初演された。その初演はヴェルディにオペラ作曲家としての最初の成功をもたらし、ことに全曲の主軸となっている合唱が好評で、当時の新聞はその見出しにヴェルディを「合唱の父」として絶賛した。作品はエルサレムを攻略しユダヤ人を捕虜にしたバビロンの王・ナブコドノゾールを主人公としたもので、神罰をうけて一時心を乱したナブッコがエホバの許しを求めて祈り、正気を取り戻してエホバの忠実な僕となる、といった物語によっているが、ヴェルディの初期の作品だけに全曲に若々しい力がみなぎっている。ここにとりあげられる合唱曲は、「予言」と副題のつけられた第3幕、ユーフラテス河畔で展開される第2場で、ヘブライ人たちによって彼らの望郷の念が、ラルゴ、ハ長調、4分の4拍子の音楽によってうたわれる。

## II, 歌劇《トロヴァトーレ》第2幕からジプシーの合唱（アンヴィル・コーラス）〈朝の光がさしてきた〉

サルヴァトーレ・カンマラーノ（1801-1852）の台本によったオペラ《トロヴァトーレ》は、1853年1月19日、ローマのアポロ座で初演された。ヴェルディはこの時39歳、彼のベル・カント・オペラ・セリアの集大成的作品ともいえるこのオペラの初演は彼自らが指揮棒をにぎり、大成功を収めた。作品はジプシーの老婆アズチェーナによる一種の復讐譚で、ヴェルディならではの旋律美にみちあふれている。

ここにとりあげられる有名な合唱曲は「ジプシーの女」と副題のついた第2幕の冒頭で、ジプシーたちによってうたわれる。アレグロ、ホ短調、4分の4拍子。

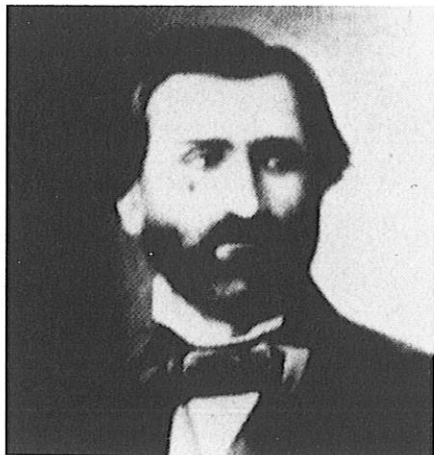
## III, 歌劇《十字軍のロンバルディア人》第4幕から十字軍兵士と巡礼の合唱〈おお主よ、ふるさとの家々を〉

ヴェルディの4つめのオペラ《十字軍のロンバルディア人》は彼が29歳の1843年2月11日、ミラノ・スカラ座で初演され、十字軍の姿を借りた愛国精神の発露ともいべきこの作品は、当時のイタリア人に深い感銘を与えるとともに、志気を鼓舞した。物語は、恋敵の兄を殺そうとして過って父を殺してしまった弟と、第1回十字軍のエルサレム攻撃の際に重傷を負う兄とを中心に繰り広げられる。

ここでとりあげられる合唱曲は、「聖墓」と副題のつけられた第4幕、ラケルの墓に近い十字軍の陣営で展開される第2場で十字軍兵士と巡礼たちによってうたわれる。アダージョ、ハ長調、4分の4拍子。ユニゾンで力強くうたわれるこの合唱は、初演の際にも人々を圧倒的な感動に導いた。

## IV, 歌劇《ドン・カルロ》（5幕版）第3幕から〈ここに明けた、輝かしき喜びの日が〉

ヴェルディが53歳の時書き上げたオペラ《ドン・カルロ》は、彼の最高傑作のひとつで、最も深みがある。またフランスに生まれたグランド・オペラという5幕構成の形式をとっての名曲はグノーの「ファウスト」を除き残っていないが、ヴェルディはこの長大な形式に充実した内容を盛り込み、歴史上まれなる格調の高いグランド・オペラを作り上げた。シラーの悲劇を原作にしたこの作品はもともフランス語で書かれ、1867年3月11日、パリのオペラ座で初演されたが、演奏内容の貧弱さが原因で不成功に終わり、同年10月、イタリア語訳されたものがボローニャのテアトロ・コムナーレで上演され、イタリア初演は大成功であった。今日とりあげたのもこのイタリア語訳版であることは言うまでもない。作品は、かつての恋人が父フィリッポ二世と結婚したために悩むスペインの王子ドン・カルロを中心に繰り広げられる。



ここでとりあげられる合唱曲は、アトカ聖母寺院前の大広場で展開される第3幕第2場で民衆たちが王を讃えてうたうもので、第3幕に大スペクタクルのあるフィナーレがくるグランド・オペラとしての性格が、最もよく現れている音楽といえよう。アレグロ・アッサイ・ソステヌート、ホ長調、4分の4拍子で開始される荘厳な音楽は、異端者火刑の場のためのものとしてふさわしい。

## ヴェルディ (Giuseppe Fortunio Francesco Verdi) について

ジュゼッペ・ヴェルディ（1813-1901）はイタリアの貧しい宿屋の子として生まれた。幼くして音楽的感受性に優れ、10歳で教会のオルガン奏者をつとめ15歳で作曲をはじめた。幾度かの失敗を重ねつつもオペラ作曲家として情熱を持ち続け、彼の30にのぼるオペラ作品により今もなお彼はイタリア・オペラの第一義的存在として世界に認識されている。

客演指揮者  
岡田 司

1953年、大阪生まれ。指揮法を斎藤秀雄、山田一雄両氏に、フルートを林リリ子女史に師事する。

1977年、広島交響楽団を指揮、その後京都市交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、読売日本交響楽団、新星日本交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団を次々に指揮していずれも好評を博す。

1979年、アメリカに留学し、タングルウッド音楽祭（パークシャーミュージックセンター）において小澤征爾、L. パーンスタイン両氏の師事を受ける。帰国後は二期会等のオペラ公演で、W. サヴァリッシュ、Z. コシュラー、朝比奈隆、小澤征爾、若杉弘、秋山和慶、手塚幸紀、尾高忠明、佐藤功太郎各氏のもと副指揮、合唱指揮を務め、その手腕を高く評価された。

1980年、関西二期会でブリテン「ねじの回転」を関西初演してオペラ・デビューを果たした。現在までにラヴェル「子供と呪文」、モーツァルト「コシ・ファン・トゥッテ」（中国二期会）、ロッシニ「セヴィリアの理髪師」、モーツァルト「魔笛」（日生オペラシリーズ）などを指揮して着々とオペラ界での地歩を固め、ますます充実した意欲的な活動をみせている。

1987年、名古屋フィルハーモニー交響楽団の指揮者をへて、1990年4月より大阪センチュリー交響楽団の指揮者を務めている。

## ヴェルディへの挑戦

親愛なる同志社グリーンの諸君からイタリアオペラの合唱曲を…という申し出に、私は少なからず頭を悩ませてしまった。というのも、モンテヴェルディを出発点とする現代イタリアオペラの作曲家は、ドイツの作曲家ほどその作品の中に男声合唱曲を書いてはいない。あったとしても、それはごく断片的に用いられている場合がほとんどだ。まして四声のコーラスを女声ぬきで演奏するのはこの場合相当難しいことである。特にプッチーニからレオンカヴァッロ・マスカーニへと続くヴェルディ以降の作品に関しては全く絶望的であろう。

もちろんヴェルディとて例外ではない。彼のオペラ合唱曲は、かぎらないドラマと深い人間的なテーマを内に秘めている。だが、作曲の手法としては、それほど複雑さを誇示しているわけではない。ユニゾン（斉唱）が多く、ハーモニーも清潔である。だからこそ、その演奏には途方もなく豊かな表現力が要求されることになる。まして女声のたすけ無しで…

今回その無謀ともいえる冒険に私を駆り立てたのは、これらの曲が時たま男声合唱によって歌われることがあるという事実からではまったくない。その証拠にこの中には、男声のみの演唱にはいささか辛いものも含まれている。ではなぜ？と問われるならば、それはやはり同志社グリーンの若き芸術家達への傾倒のゆえであろう。一昨年のメサイアでの共演、また客席で聴いたファウストの劫罰での名唱など彼らに対する信頼の念は厚い。彼らの演奏史の一ページに参加できることを今宵の最大の楽しみとしつつ、タクトを振りおろすことにしよう。きっと私のもとにも皆さんのもとにも大きな音楽のうねりが押し寄せることであろう。



## I NABUCCO

## Ebrei

Va, pensiero, sull'ali dorate;  
Va, ti posa sui clivi, sui colli,  
Ove olezzano tepide e molli,  
L'aure dolci del suolo natal!  
Del Giordano le rive saluta,  
Di Sionne le torri atterrate . . .  
Oh mia patria sì bella e perduta!  
Oh membranza sì cara e fatal!  
Arpa d'ôr dei fatidici vati,  
Perchè muta dal salice pendì?  
Le memorie nel petto raccendi,  
Ci favella del tempo che fu!  
O simile di Solima ai fati  
Traggi un suono di crudo lamento,  
O t'ispiri il Signore un concerto  
Che ne infonda al patire virtù!

歌劇《ナブッコ》第3幕から  
ヘブライの捕虜たちの合唱  
〈行け、わが思いよ、金色の翼に乗って〉

## ヘブライ人たち

行け、我が思いよ、金の翼に乗って、  
行って、憩え、あの丘に、山に。  
あそこには、ぬくく、やわらかに  
故国の甘い風が薫っている。  
それから挨拶を、ヨルダン川の岸辺に  
シオンの丘の崩れた塔に、届けてくれ。  
ああ、あの美しい今は失われた我が祖国！  
ああ、あの懐かしくも不幸な思い出！  
運命を告げるといふ予言者の金の竖琴よ。  
なぜお前は、黙して、柳の木にかかっている。  
うちに収めた記憶を取り出して  
過ぎし日を、我らに、語ってくれ。  
あるいは、エルサレムの運命に似せた  
悲しき嘆きの歌を響かせてくれ。  
さもなくば、神から授けて、聞かせてくれ  
苦しみに耐える力となる樂の音を。

## II IL TROVATORE

## Zingari

Vedi, le fosche notturne spoglie  
De' cieli sveste l'immensa vólta:  
Sembra una vedova che alfin si toglie  
I bruni panni ond'era involta.  
All'opra, all'opra! Dàgli! Martello!  
Chi del gitano i giorni abbellà?  
La zingarella!

## Uomini

Versami un tratto: lena e coraggio  
Il corpo e l'anima traggon dal bere.

歌劇《トロヴァトーレ》第2幕から  
ジブシーの合唱（アンヴィル・コーラス）  
〈朝の光がさしてきた〉

## ジブシーたち

見ろよ、そうら、黒く暗い夜の衣を  
大空が脱ぎ捨てていく。  
似ているぞ、やつのことに、後家さんが  
まとうていた黒い服を脱ぎ捨てたのに。  
さあ、仕事だ、仕事！ 打て！金槌！  
ジブシーの生活にいろどりをそえるのは？  
そりゃ、ジブシー娘！

## 男たち

俺に一杯ついでくれ、飲めば  
心も体も、生気と勇気を得るってものさ。

## 全員

ほら、そら、そら、太陽の光が  
盃の中で、いよいよ輝きをましてくる！  
さあ、仕事だ、仕事！  
ジブシーの生活にいろどりをそえるのは？  
そりゃ、ジブシー娘！

## III I LOMBARDI

## Crociati e pellegrini

O Signore, dal tetto natio  
Che chiamasti con santa promessa;  
Noi siam corsi all'invito d'un pio,  
Giubilando per l'aspro sentier.  
Ma la fronte avvilita e dimessa  
Hanno i servi già baldi e valenti!  
Deh! non far che ludibrio alle genti  
Sieno, Cristo, i tuoi fidi guerrier!  
Oh fresc'aure volanti sui vaghi  
Ruscelletti de' prati lombardi!  
Fonti eterne! Purissimi laghi!  
Oh vigneti indorati dal sol!  
Dono infausto, crudele è la mente  
Che vi pinge sì veri agli sguardi,  
Ed al labbro più dura e cocente  
Fa la sabbia d'un arido suol!

歌劇《十字軍のロンバルディア人》第4幕から  
十字軍兵士と巡礼の合唱  
〈おお、主よ、ふるさとの家々を〉

## 十字軍兵士と巡礼

おお神よ、生まれし家より  
聖なる約束もて我らを召し給うた神よ、  
我らは聖なるお呼び出しに従い  
喜び勇み、険しい道を、馳せ参りました。  
しかし、勇気と力ある、神の僕なる我らも  
ここに打ちひしがれ、頭をたれています。  
どうか、キリストよ、我ら神の忠実なる戦士が  
万民の嘲笑的になることのないように！  
ああ、涼やかな、美しい小川に吹く  
ロンバルディアの野の風よ、  
こんこんと湧く泉よ、あくまで澄んだ湖よ、  
ああ、太陽に染まり金に輝く葡萄畑よ！  
なんと酷い、不幸な、天からの授かりものか、  
目の前に見えるように故郷の姿を思い出させる記憶とは。  
お蔭でより一層、唇に熱く、固く感じられる  
この乾いた土地の砂が。

## IV DON CARLO

## Popolo

Spuntato ecco il dì d'esultanza,  
Onore al più grande de' Re!  
In esso hanno i popol' fidanza,  
Il mondo è prostrato al suo pie'!  
Il nostro amor ovunque l'accompagna,  
E quest'amor giammai non scemerà.  
Il suo nome è l'orgoglio della Spagna,  
E viver deve nell'eternità!

## Fрати

Il dì spuntò, di del terrore.  
Il dì tremondo, il dì feral.  
Morran, morran! giusto è il rigore  
Dell'Immortal.  
Ma di perdòn voce suprema  
All'anatema – succederà  
Se il peccator all'ora estrema  
Si pentirà!

歌劇《ドン・カルロ》（5幕版）第3幕から  
〈ここに明けた、輝かしき喜びの日が〉

## 民衆

ここに明けた、輝かしき喜びの日が。  
誉れあれ、王に王たる我らの王に。  
我らはみな、王を信頼し、  
世界はその足下にひれ伏している。  
我らの愛は、いずこへなりと王に従い  
そしてこの愛の、かけることは決してない。  
王の御名はスペインの誇り、  
御名は、必ずや、永遠に輝き続けよう。

## 僧侶たち

その日が始った、恐怖の日が、  
恐るべき日が、死をもたらす日が。  
あの者らは死ぬ、死ぬことになる！  
神の掟は常に正しい。  
だが、破門の裁きの後にも  
神のゆるしの声は聞かれよう  
もし、罪人がいまはの際に  
悔い改めるなら。



## 男声合唱組曲 「青いメッセージ」

### 演奏会によせて

高嶋 みどり

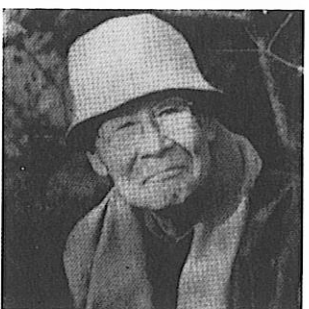


「青いメッセージ」は、草野心平氏の7つの詩をテキストとして、1983年から84年にかけて作曲し、山田一雄先生の指揮、ピュイグ・ロジェ先生のピアノ、早稲田大学グリークラブにより初演されました。

- ・1曲目の冒頭に、序曲の様な役割を持つ3和音が連続する独特な響きが提示されていますが、それはその後も、様々な形に変容されながら全曲に渡って度々出現してくる、重要な動機です。
- ・2曲目は、蛇に食われたちびっこ蛙が見た死後の世界を描いています。
- ・3曲目は、婆さん蛙の辞世の言葉をブルース調のコミカルなタッチで表現してみました。
- ・4曲目は、全曲中唯一のア・カペラの曲です。
- ・5曲目は、ソノミ村の大虐殺に巻き込まれ、死んでも死にきれないで「コウモリに化けた蛙」の話で、反戦の詩です。終曲へは、アタッカで入ります。
- ・「春殖」で始まる終曲は、生命の誕生を祝う、温もりを持ったア・カペラの響きで始まります。春の日にきらきらと照らされた、池のぬるんだ水に、ゆらゆらとたゆたう水藻のあちらこちらから、祝福された新しい生命が、「るーる」と誕生していきます。そして、哲学者「ごびらっふ」の語る幸福論へとつながります。この曲は、2部構成でできていて、初めに蛙語で、後に翻訳された日本語で歌われます。このあたりが草野心平氏の詩の醍醐味でもあり、また、この作品の山場でもあります。

最後になりましたが、このたび同志社グリークラブの皆様にご演奏していただけますことを、とても嬉しく存じております。演奏会の御成功を、心からお祈り申し上げます。

### 詩人・草野心平（1903—1988）について



明治36年（1903）、福島県石城郡上小川村で生を受けた。だが、心平は東京に住む両親や兄弟姉妹とは遠く離れてひとり郷里上小川村の祖父母のもとで育てられた。

明治43年、祖父の死に逢う。大正5年、兄民平が17歳の生涯を閉じ、続いて母と姉も息をひきとる。この時、感受性の強い年齢の心平に「生」と「死」が強烈に襲いかかった。

大正8年、福島県立磐城中学から慶応普通部に編入する。しかし、父との確執から家を出、慶応退学。大正10年、上海へ渡る。

草野心平が詩に強い意欲を燃やし始めたのは、中国に渡り、広東の嶺南大学に入学してからのことである。心平の作詩の直接の口火となったのは、亡き兄・民平の作品だったようである。「兄のノートが誰から私の手に移ったか確として記憶はないが、多分第二の母からだったろうと思われる。私に渡されたときバラバラと散読したきりで、改めてじっくり目をとおしたのは嶺南大学の寄宿舎の屋根裏部屋でだった。（中略）屋根裏部屋にはアルバイト学生だけがたむろしていたが、その薄暗い窓際で読んだ民平の詩や短歌や小品文に、特にその詩に私は瞠目した。当時の私より年少だった兄の詩には理解できない変な詩があったが、その分からない作品が分かりすぎる作品よりも私には魅力があった。民平の詩作品の中の約十篇ほどは大正三、四年頃の日本の詩界の詩作品に比べても類似傾向のものではなく、言わば異端な新鮮さがある。また、ひどい早熟さだった。」と、『私の中の流星群』の中で心平自身が語っている。この地では、内地の詩誌『詩聖』などへの投稿や、中国人黄瀛などの協力による広州での詩誌『銅鑼』の創刊（大正14年4月）等、活発に活動する。しかし、排英排日運動のため7月帰国。宮沢賢治、高村光太郎らとのかかわりは、この時期にできている。

昭和3年6月に結婚した後、11月には詩集『第百階級』刊行。いわゆる「蛙の詩」の出発であり、一般に認められている第一詩集である。当時ようやく広まった社会主義思想の中の階級的社会観・国家観に、第一階級（王・侯族）、第二階級（貴族・僧侶）、第三階級（ブルジョア・プロレタリア・農民）などがあり、そういう人間階級のはるか末端に蛙族を位置づけ、『第百階級』の名を与えたものと思われる。心平にとって「蛙」は友人であり兄弟であり親なのであり、なによりも同じニンゲンなのである。心平は生涯を通して「蛙」に題材を求めている。詩集『蛙』『定本蛙』『第四の蛙』と続く「蛙」の詩は、心平の百姓精神によって貫かれていると言ってよいだろう。「蛙」を書いている時の心平の心は、いつも故郷小川村に帰っている。そして、自由で柔軟な少年時代の感性に立っているのである。

### 「青いメッセージ」について

永島 健一

「生」とは？ 「死」とは？ 「今」の「我」とは？ 数千年来の、そして今後も永続するであろう人間の問い掛けである。「青いメッセージ」のテーマも、この「生」と「死」である。第二曲から第五曲までに描かれる死は、さまざまな相を呈しながらも、あることを暗示している。生きるものは常に死に支配されている、死は身を潜めて出番を待っているのだ、と。不安な影を落とした沈黙、しかしその時ふと、生誕に胸ふくらむ鼓動が聞こえてくる。さらにその底のほうでは、「幸福というものはたわいなくっていいものだ……」とつぶやいている。そのつぶやきは、次第に確信の度合いを深めてゆき、ついには、まったく独自の、しかし素朴で、純朴な幸福観となる。瞬間、目の前は開け、「我」と「天」は一体化され、「死」は克服される。そして、祈りのような叫びで、力強く自己が肯定される。地べたに生きる蛙、草野心平氏にとって最も身近な存在の蛙と、時空混淆の極みである「天」の合一、「ばらあら ばらあ」によって、宇宙の、一つの真理が解き明かされているのである。

ああ虹が。  
おれの孤独に虹がみえる。  
おれの単簡な脳の組織は。  
言はば即ち天である。  
美しい虹だ。  
ばらあらばらあ。

「青いメッセージ」は同志社グリー初挑戦の曲である。複雑なリズム、交錯する変拍子、臨時記号の羅列など、不慣れた現代曲のせいか、練習開始当初はかなりとまどっていた。その後徐々に慣れてきて、何とか良い方向へ進んできたと思う。しかしこの曲を十分に表現するには、まだまだ力不足かもしれない。東西四連の『繩文』の時は、小林研一郎先生の棒に圧倒され、学生の無力さを痛感させられた。それにも懲りずにこのような難曲を取りあげたわけだが、常に誠実に音楽と向き合うことで何かを感じることができたら、と思っている。そして、最初は「難しい」「わからない」「鬼」などとぼやきながらも一生懸命うたってくれた部員のみなさんと、難儀にお付き合い頂いた長田先生に感謝しつつ、演奏にのぞみたい。



### 第60代同志社グリークラブ学生指揮者 永島 健一

1968年埼玉県生まれ。松山高校時代より指揮者として活躍。

2月、フェアウェルコンサートの『在りし日の歌』で、第60代学生指揮者として華々しくデビュー。以来、東西四連、夏期金沢演奏旅行、関西六連と、全ての演奏会を卓越した指導力によって成功に導く。特に、先の関西六連における『青いメッセージ』は難曲にもかかわらず、その解釈の深さは各方面から絶賛を浴びる。クラブ内では、権力者として恐れられる存在である。また、人物鑑定家としても幅広く活動を続ける。

### メッセージ

良い演奏には、必ず何かがある。技術的完成度が高いとか、破綻なくできたとか、そういうことではない、熱く燃える魂の会話のようなものがある。言葉で説明するのは不可能である。心の片隅に永久に刻み込まれるような、本当に、音楽的に感動できるうたをうたいたい。頭ではそう考えていても、やろうと思うだけでできる事ではない。やはり、やるべきことは練習から見えてくる。謙虚に、前向きに、厳しく、練習を積み重ねてゆくことで、良い演奏への可能性は必ず開けるはずである。

「Missa Mater Patris」「ヴェルディ・オペラ合唱曲集」「青いメッセージ」「Liebeslieder」。今宵、御来場の皆様と素晴らしいひとときを共有できたならば、それ以上に嬉しいことはない。







# LIEBESLIEDER (「愛の歌」「新・愛の歌」より)

## 曲目解説

ブラームスは北ドイツ・ハンブルクの生まれで、本能的に北ドイツの民俗音楽に惹かれていたが、第二の故郷であるオーストリアの芸術を仄めかす作品が多く、オーストリアの都、ウィーンの芸術であるワルツに最高の敬意を払っている。この「愛の歌」はウィーン的な作品の代表的なもので、ウィンナ・ワルツへの思いを示しており、人生の喜びを歌った快活で明るいこの曲は、ブラームスの作品のなかでは非常に珍しいものである。

「愛の歌」は、1869年に完成された四手のピアノと四声部の歌声（混声）のためのワルツであり、シューベルト風のゆるやかなレンドラー（ウィンナ・ワルツの原型／ゆっくりした三拍子）で18曲の小曲ができています。四声でなくとも重唱とピアノを組み合わせた曲は、シューマンなどにも先例が見られるが、この「愛の歌」のように四手のピアノを用い、しかもこのピアノが伴奏というよりむしろ独立的立場を保っているような形式の曲を作ったのは、ブラームスが先駆と言える。この曲では、四手のピアノパートに特に重点がおかれ、声の部分は任意とされているが、歌によって表現される言葉の美しさがなく、この曲の特殊な魅力が失われるのはいうまでもない。また、全曲すべてに四分の三拍子のワルツのリズムを与えているという特徴も持っている。

歌詞は、フリードリヒ・グオルグ・ダウマーが、ロシア、ポーランド、ハンガリーなどの詩を翻訳したものや模作したものをつづった詩集「ポリドーラ」からとられている。なお、この編曲の最後の曲「Zum Schluß」だけは、1874年に作られた「新・愛の歌」の終曲であり、この曲の歌詞は、ダウマーではなく、ゲーテの「アレクシスとドーラ」からとられている。「新・愛の歌」も四分の三拍子によっているが、この終曲だけは唯一四分の九拍子となっている。この終曲は、恋する者の歎きや幸福を経た後の、最後の結びともいべき曲であり、落ち着いて、達観したように「愛の歌」が締めくくられるのである。

## ヨハネス・ブラームス【1833-1897】



ヨハネス・ブラームスは、1833年、北ドイツの港町ハンブルクで、音楽家のヨハン・ヤーコプの長男として生まれた。幼い頃から父に音楽の手ほどきを受け、後にピアノをコッセルに師事した。その非凡な才能を認められ、10歳から18歳までの8年間、コッセルの師でもあるエドヴァルト・マルクスゼンにピアノと作曲を学んだ。

1853年、20歳のとき、彼はシューマン夫妻を訪問した。彼はシューマンの人格と才能にひかれ、シューマンもまた彼の才能を高く評価し、自ら彼を世に紹介した。そして妻のクララ・シューマンとは、この出会いから、生涯を通じての親密な交際がはじまるのである。10年後の1963年、ウィーンのジングアカデミーの指揮者の地位を得て、以後1897年にこの世を去るまでウィーンを本拠地として活動した。

当時は、リストやワーグナーらの「新ドイツ楽派」を支持する風潮が強かった。ワーグナーは“未来音楽”を主張し、その形式は「ニーベルングの指環」に代表される《楽劇》へと進展してゆく。しかしブラームスの気質はそれを受け入れることを拒んだ。彼はベートーベンやバッハなど、古典派やそれ以前の作曲家へと目を向け、徹底的に研究し、その手法を自らの作曲の礎とした。そのため、メンデルスゾーン、シューマンに続くロマン派の作曲家としては古典的な色合いが強く、時代の波に逆行しているかのようにみえる。しかし、ワーグナーが表現の領域を拡大して自らの理想的芸術を実現したように、ブラームスは過去の大家の作品に学び、自己のスタイルを確立したのである。もともと彼には、ドヴォルジャークのような旋律発想の豊かさはなく、簡単な動機を念入りに展開させていくのが持ち味だった。加えて、内省的で自己批判の強い性格だったため、慎重かつ入念な構成と仕上げがなされ、幾重にも屈折した表現を生み出していった。しかしその中には、北ドイツ精神が根底となっている抒情性が決して失われてはいない。ブラームスの音楽は、ブラームスの人間そのものに由来しているのである。

## 客演指揮者

### 畑中良輔



東京音楽学校卒業。宮廷歌手ヘルマン・ヴァーハーベニヒ博士に師事。リリックな声を持ち、その音楽的解釈力の深さと卓越した演技力は、デビュー当時より高い評価を受けてきた。とくにオペラではモーツァルト歌手として第一線に立ち、「魔笛」のパパゲーノ、「フィガロの結婚」のフィガロをはじめ、モーツァルトのオペラの本邦初演の主役のすべてをつとめた。イタリア・フランスオペラでは、世界の名歌手、タリアビーニと「ボエーム」「ウエルテル」、ゲルハルト・ヒュッシュと「ドン・ジョバンニ」などを共演し、オペラ史上に輝かしい記録を残した。歌曲では、ドイツ・日本歌曲に造詣深く、特に日本歌曲のプログラムで全国縦断連続リサイタルを行い、啓蒙の役割を果たしたことは特筆に値する。また作曲の面では抒情的な歌曲作品が多く、「畑中良輔歌曲集」が全音楽譜より出版されている。評論の面では30年にわたり朝日新聞の音楽評を書き続け、「演奏家的演奏論」「演奏の風景」「朝日試聴室」などの著書がある。また教育者としては、弟子の多くのすぐれた声楽家が、日本はもとよりヨーロッパでも第一線の歌手としてオペラ・歌曲に活躍している。日本演奏連盟理事、全日本合唱教育研究会会長、日本音楽コンクール運営委員をはじめ、多くの役職をつとめ、文部省の教育課程審議会の重責をも担っている。東京芸術大学名誉教授、慶應義塾大学特選塾員、昭和60年紫綬褒章受賞。

## 合宿での奇蹟

今年も同志社グリーンを振る事になりました。福永君のあとをうけて二回目。ドヴォルジャークに引き続き、やはり陽一郎君の編曲によるブラームスの「愛の歌」を選びました。

ワルツ集「愛の歌」というと、さだめしウィーン風の甘美な旋律いっばいの曲だと思われがちですが、そこはブラームス。情緒や感傷に溺れず、音の持つ構築的な世界を、ワルツの前身、レンドラー舞曲の三拍子に乗せるから、多層的に展開しています。

ブラームスの屈折したこの精神構造を理解しないと、この曲集は歌いこなせず、九月の合宿ではうまく行かず、苦しみました。そこで、ブラームスの若き日の出発からシューマン家への訪問、クララへの友情、シューマンの死など、ブラームス解明への話を、僅かな時間で話しました。ブラームスの晦渋な音楽構造をどうしたらモノに出来るかと。

話のあと、全曲を通した時、奇蹟は起こりました。それまでの練習で表現出来なかったブラームスの姿が見えて来たのです。しばし言葉も出ません。こんな事が起ころうとは。やはり、音楽には“こころ”が必要なのでした。技術や声は、その“こころ”の媒体なのでしょう。

この成功を今夕お伝え出来れば、と念じています。



## 1. Rede, Mädchen, allzuliebes!

Rede, mädchen, allzuliebes, 言っておくれ 僕の最愛の人よ  
 das mir in die Brust, die Kühle, 僕の冷めた胸に  
 hat geschleudert mit dem Blicke そのまなざしで激しい情熱を  
 diese wilden Glutgefühle! 投げ込んだ乙女よ  
 Willst du, 君は  
 nicht dein Herz erweichen, 心を和らげようとはしないのか  
 willst du, eine über fromme, 修道女のように  
 rasten ohne traute Wonne, 愛の喜びなしで生きるつもりなのか  
 oder willst du, daß ich komme? それとも 僕に来て欲しいのか  
 Rasten ohne traute Wonne, 愛の喜びなしで生きるなんて  
 nicht so bitter will ich büßen. そんな苦しみには耐えられません  
 Komme nur, du schwarzes Auge, それではおいで 黒い瞳の君  
 komme, wenn die Sterne Grüßen. 星が挨拶をする頃に

## 2. Am Gesteine rauscht die Flut

Am Gesteine rauscht die Flut, 激流が岩に突き当たって  
 heftig angetrieben; 飛沫をあげて砕け散る  
 wer da nicht zu seufzen weiß, それを見て嘆息することを知らぬ者も  
 lernt es unterm Lieben. 恋をしてそれを学ぶのだ

## 3. O die Frauen

O die Frauen, おお 女達よ  
 wie sie Wonne, Wonne tauen! 喜びをもたらすものよ  
 Wäre lang ein Mönch geworden, 女達がこの世に存在しなかったら  
 wären nicht die Frauen! 僕はとっくに僧になっていただろう

## 4. Sieh, Wie ist die Welle klar!

Sieh, wie ist die Welle klar, ごらん 波がこんなにはっきり見える  
 blickt der Mond hernieder! 月がけが下にきらめいているんだ  
 Die du meine Liebe bist, 僕の愛しい人  
 liebe du mich wieder! もう一度僕を愛しておくれ

## 5. Nachtigall, sie singt so schön

Nachtigall, sie singt so schön, 夜鶯よ おまえはとても美しく歌う  
 wenn die Sterne funkeln. 星の輝く頃に  
 Liebe mich, geliebtes Herz, 愛しい人よ 僕を愛しておくれ  
 Küsse mich im Dunkeln, ...! 闇にまぎれて口づけをしておくれ

## 6. Ein dunkler Schacht ist Liebe

Ein dunkler Schacht ist Liebe, 愛は暗く深い穴  
 ein gar zu gefährlicher Bronnen; あまりに危険な井戸  
 da fiel ich hinein, ich Armer, その中に落ちてしまった哀れな僕は  
 kann weder hören noch sehn, 聞くことも見ることもできずに  
 nur denken an meine Wonnen, ... 幸せを夢見て  
 nur Stöhnen, in meinen Wehn, ... 哀しみにうめくばかり

## 7. Wenn so lind dein Auge mir

Wenn so lind dein Auge mir 君の瞳がそんなに優しく  
 und so lieblich schauet, そんなに愛らしく僕を見つめると  
 jede letzte Trübe flieht, 僕の心を灰色に閉ざしている悲しみは  
 welche mich umgrauet. ひとつ残らず消え失せてしまう  
 Dieser Liebe schöne Glut, この愛の美しい炎を  
 laß sie nicht verstieben! 散らせたりはしない  
 Nimmer wird, wie ich, so treu この世の誰よりも  
 dich ein Andrer lieben. 心の底から僕は君を愛している

## 8. Ein kleiner, hübscher Vogel

Ein kleiner, hübscher Vogel 一羽の小さなかわいい  
 nahm den Flug zum Garten hin. 小鳥が果樹園の方に飛んでいった  
 da gab es Obst genug. そこは果物でいっぱいだった  
 Wenn ich ein hübscher, kleiner もし 僕がかわいい小さな  
 Vogel wär, ich säumte nicht, 小鳥だったら ためらわずに  
 ich täte so wie der. 同じことをしただろう  
 LeimrutenArglist lauert an dem そこには奸悪なもち竿が待ち伏せて  
 Ort der arme Vogel konnte nicht いたのでかわいそうな小鳥はもう  
 mehr fort... 逃げられなかった  
 Wenn ich ein hübscher, kleiner もし 僕がかわいい小さな  
 Vogel wär, ich säumte doch, 小鳥だったら ためらって  
 ich täte nicht wieder. 同じことはしなかっただろう  
 Der Vogel kam in eine schöne その小鳥は美しい人の手にわたり  
 Hand, 手  
 da tat es ihm, dem Glücklichen, その手の中で幸福者のその小鳥は  
 nicht and. 悪い気はしなかった

## 9. Am Donaustrande

Am donaustrande, steht ein Haus, ドナウの岸辺に建つ一軒の家で  
 da schaut ein rosiges Mädchen aus. ぼらのような乙女が外を眺めている  
 Das Mädchen es ist wohl gut 乙女は大切にされているのだろう  
 gehegt, zehn eiserne Riegel sind 十の鉄のかんぬきが  
 vor die Türe gelegt. 戸口にかけてある  
 Zehn eiserne Riegel das ist ein 鉄のかんぬきが十本とはお笑いだ  
 Spaß; 笑  
 die spreng, ich, als wären sie 僕はそんなものはガラスで出来ている  
 nur von Glas. ...! かのうように壊してしまう

## 10. Nein es ist nicht auszukommen

Nein es ist nicht auszukommen いやだ 世間の奴らには我復できない  
 mit den Leuten; 誰とも  
 Alles wissen sie so giftig あいつらはなんでも意地悪く解釈する  
 auszudeuten. のが得意なんだ  
 Bin ich heiter. 僕が陽気なら  
 hegen soll ich rose Triebe; ふしだらな欲望を抱いていると噂し  
 bin ich still, 静かしていると  
 so heißt ich wäre irr aus Liebe. 恋に夢中になっていると噂するんだ

## 11. Schlosser auf und mache Schösser

Schlosser, auf さあ 錠前師よ  
 und mache Schösser, 鍵を作れ  
 Schösser ohne Zahl! 無数の鍵を作れ!  
 denn die bösen, bösen Mäuler 世間の奴らの意地の悪い口に  
 Will ich schliessen, allzumal! 悉く鍵をかけてやりたいんだ!

## 12. Zum Schluß (結び)

Nun, ihr Musen, genug! ミューズの神よ もうたくさんだ!  
 Vergebens strebt ihr zu schildern, 貴方がたは恋する人の心に悲劇と幸福  
 wie sich jammer und Glück が入れ替わる様をいたずらに描こう  
 wechseln in lieben der Brust. とするだけではないか  
 Heilen könnet die Wunden ihr 貴方がたは愛の神の負わせた傷を癒や  
 nicht, die Amor geschlagen, すことは出来ないではないか  
 aber linderung kommt einzig, ただやすらぎが与えられるのみなのだ  
 ihr Guten, von euch. 貴方がた善なる者によって

## ヴォイストレーナー 大久保 昭男



1953年、東京芸術大学声楽科卒業。矢田部勁吉氏に師事された。デビューは近衛秀麿指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役で、以後、山田耕作指揮のオペラ「黒船」、ドヴォルジャークのオペラ「ルサルカ」などにも出演された。そして、1959年には、ドイツ・リート、日本歌曲による第1回リサイタルを開かれた。

現在、昭和音楽大学短期大学部教授として教鞭をとられる一方、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団、上智、立教、明治、関西学院、同志社の各グリークラブ、早稲田コール・フリーユゲル、法政アカデミー等のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で幅広く活躍されている。

## 第87回定期演奏会によせて

「第87回定期演奏会」を迎えられるにあたり、心よりお祝い申し上げます。毎年、師走のこの時期になりますと、各地で数多くの大学の合唱団が、一年の集大成とも言うべき定期演奏会を開催します。その中で、同志社グリークラブは、今年も、力のこもった情熱あふれる演奏をしてくれることと期待しております。今年の定期演奏会も、ラテン語、イタリア語、日本語、ドイツ語と、様々な言語による演奏曲目になっています。これらの言語を約4ヵ月間の練習で歌いこなすに至るには、よほどの努力が必要です。私は、このような高度な発声法を要求される演奏曲目や指揮者の方々の要求に応じられるよう、自分の力の限り、歌う者の立場に立って毎回の練習に臨んでいます。そして、「美しい本ものの音楽」のため、貴い忍耐と努力を惜しまない若者たちを手助けできることに、大きな喜びを感じております。

今宵の演奏会が、本ものの音楽を追求する若者たちの素晴らしいコンサートになることを祈ってやみません。



## ピアニスト 戎 洋子

相愛大学ピアノ科卒業。1977年大阪府民劇場奨励賞受賞。母校の相愛大学の講師として後進の指導にあたるかわら、オペラ室内楽等の伴奏者として幅広く活躍している。特に、オペラにおける造詣が深く、関西歌劇団、関西二期会等のオペラプロローベでは名伴奏者として著名であり、その透逸なるアンサンブル感覚は他者の及ばぬものがある。現在、相愛大学講師。

## メッセージ

「テルマとルイズ」という映画を、観た。女性版「明日に向かって撃て」のストーリー。最近、女達がかっこいい。女が一人で暮らしていくのもけっこう気楽で楽しいと思いつつ、フワフワと生きている私。そんな私が、一年に一度、ガンとショックを受ける日がある。今夜!

“男のロマン、男の友情、男の夢、男の声”すべてが、グリークラブにはある。「テルマとルイズ」もいいけど、やっぱり男達、かっこいい!





ピアニスト 山本 優子

同志社女子大学音楽学科ピアノ専攻卒業。ピアノを吉田輝子、福本俊之の両氏に、和声学・作曲法を藤井園子氏に師事。

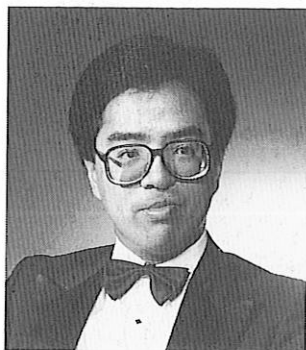
同志社グリークラブの'79中国演奏旅行、'83ヨーロッパ演奏旅行、同志社グリーOBのクローバークラブ'87ハワイ演奏旅行にピアニストとして同行する。

1981年夏、ドイツ・デトモルト音楽院にてピアノをW. シュヌアー教授に、伴奏法をH. ユンク教授にレッスンを受ける。現在もオーケストラとの共演をはじめ、合唱や室内楽のピアニストとして広く活躍されている。

メッセージ

いつも輝いた顔で潑刺とした音楽をしている皆さんと私はピアニストとしてお付き合いを始めて10数年になります。その間、国内・外の演奏旅行や定演、フェアウェルコンサート等グリークラブの行事はほとんど参加して来ましたが、今年初めて信州での夏合宿に御一緒しました。1泊2日という慌しいスケジュールでしたが、大変充実した時間を過ごす事が出来ました。畑中先生の御指導のもとメンバー全員がピリッとした緊張感の中で始まった練習も、時間が経つにつれて皆さんが先生の作られる音楽に引き込まれていく様でした。事前の練習もかなりしていた様で先生の色々な音楽的要求にも応える事が出来、本番での演奏に期待が膨らみました。

4年程前陽ちゃん先生がお元気だった頃、「ユウコちゃん、最近、同志社では良い練習が出来るよ。皆さんも自発的だし……」とステキな笑顔で話されていたのを思い出します。その音楽に対する積極さを皆さんが今も一生懸命引き継いでいるのを知り、嬉しい思いで一杯です。今日は少しでも……いやその全てを御来場の皆様にお届け出来る様、皆さんで一杯頑張りましょうね。



ピアニスト 長田 育忠

同志社大学法学部卒業。器楽・独唱・合唱等の伴奏者として、また宗教音楽のオルガニストとして数々の演奏会に出演。86年2月ボストン交響楽団京都公演（マーラー；交響曲第3番）の際、小澤征爾氏指揮による合唱練習に伴奏者として参加。86年6月、90年1月、91年1月にジョイントリサイタルを開催。

ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、山崎孝、N. ジョルジ、H. ピュイグ＝ロジェの諸氏に師事。和声楽を島田和昭氏に師事。

現在は伴奏者として幅広く活躍する一方、合唱のための編曲も数多く手がけている。（社）全日本ピアノ指導者協会正会員。

メッセージ

今年の定期演奏会では、まるで様相の異なる2ステージを受け持つことになった。いろいろな作品に取り組む機会を与えていただき、心から感謝している。

「青いメッセージ」がようやく同志社グリークラブで採り上げられた。7年前の初演を聞いた時の、その鮮烈な印象は今でも忘れられない。それ以来、いつかは同志社グリークラブと共に演奏してみたいと思っていたので、今回それが実現できてとても嬉しい。先の関西六連では、学生指揮者の永島健一君の、それこそ全身全霊を傾けた指揮のもとで、皆の心がひとつになることができた。今宵また新たな気持ちで、熱い演奏ができればと思っている。

畑中良輔先生の指揮でブラームスを演奏できるとは、何と幸せな事であろうか。先生には昨年のドヴォルザークに続いて、今年も練習を通じて、また今日のこのステージからも多くの事を勉強させていただけることと思う。グリーメンにとっても、また私自身にとっても貴重な経験になるだろう。本番では、山本優子さんと共にブラームスとクララ・シューマンになったつもりで120年前のウィーンに想いを馳せながら「愛の歌」を楽しみたいと思う。今日の演奏会が、会場に足を運んで下さった皆様にも、また演奏者にとっても心に残るひとときとなれば幸いである。

Asahi  
アサヒビール



ほろにがを、ついでください。

アサヒビールの新しい味わいの提案、〈ほろにが〉ビールが まろやかなコクと爽やかなほろにがさ。

好きで好きでたまらないあなたに、ほんとうに楽しんでいただけのビール、それがテーマでした。ビール本来の魅力であるコクを大切にしながら、すっきりとしたほろにがさを実現したアサヒ生ビール〈ほろにが〉。吟味した原料と酵母を

アサヒ生ビール  
ほろにが



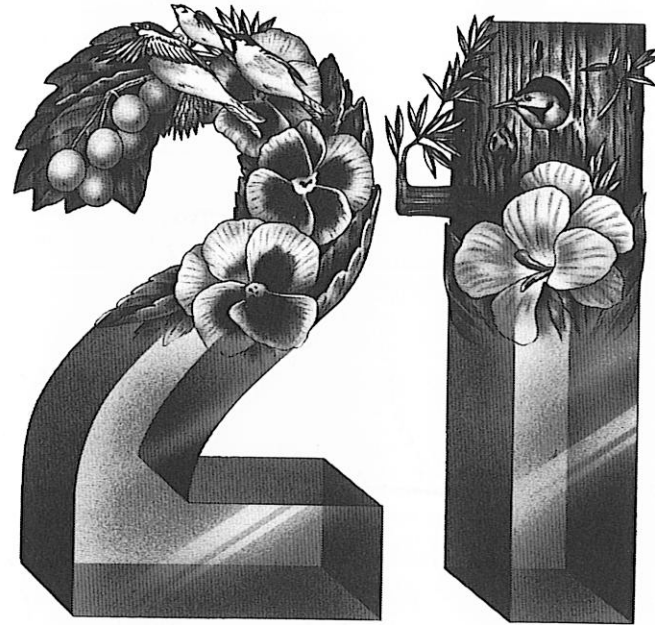
使用、上品なほろにがさを生み出すための「ホップ分割添加方式」と、雑味を搾り出さないための「フリーラン方式」で、ゆっくり仕上げました。いちばんビールが飲みたいときに、いちばんビールが飲みたいひとと、〈ほろにが〉をついでください。もっと、ビールのことが、好きになっていただける、新発売です。

●希望小売価格(消費税込)大びん ¥320・中びん ¥275・缶500ml ¥285・缶350ml ¥220 ●表示されている希望小売価格は単なる参考価格(消費税を含む)であり、お持約店様、ご販売店様の自主的な価格設定を拘束するものではありません。  
●未成年者の飲酒は法律で禁じられています。 ●酒類小売業における公正競争規約により、自動販売機による酒類の販売は午後11時より午前5時まで停止されています。 アサヒビール株式会社



三菱樹脂

プラスチックを科学する。



あらゆる角度から、  
その可能性を見つめ、  
先進の技術と豊富な経験により、  
プラスチックの新しい姿を追究します。

世紀へ向けて。

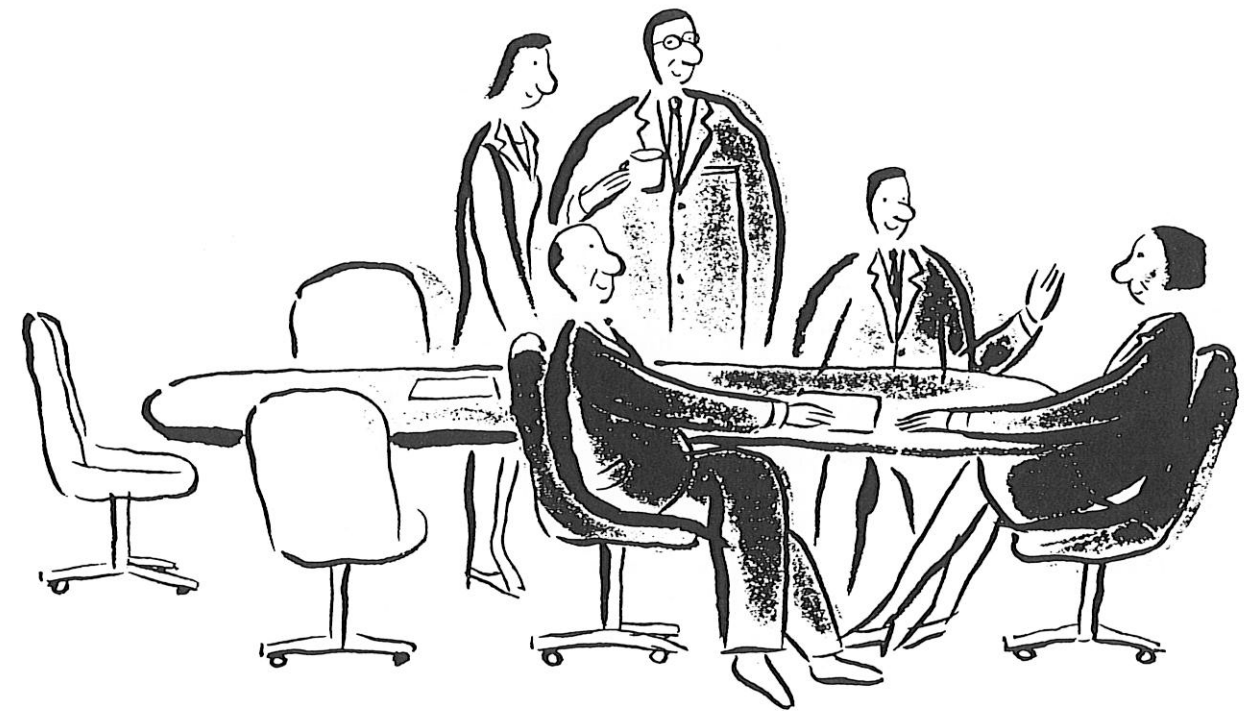
●建設機材部門●流通産業材部門●住設工業材部門●情報電子部門

三菱樹脂株式会社

本社 〒100 東京都千代田区丸の内2-5-2三菱ビル 人事部 採用担当 0120-314315(フリーダイヤル)

IBM

これが、  
いつも  
IBM  
です。



トップも、ミドルも、新人も  
みんな「さん」で呼び合っています。

入社1年目の新人が上司と話をするとき、「さん」と呼びかけるなら、トップが中堅社員に声をかけるときも、もちろん「さん」。IBMのオフィスでは、世代や仕事の内容を越え、いつも肩書きなしの個人と個人としてコミュニケーションしています。だからこそ、自由な発想が生まれ、自分の仕事に自信と責任が持てるのだと思います。経営理念・その1「個人の尊重」。——たとえば、日頃のこんな習慣が、IBMらしさの現われです。

日本アイビーエム株式会社 〒106 東京都港区六本木3-2-12



## ■春合宿 3月23日～28日 (吉野)

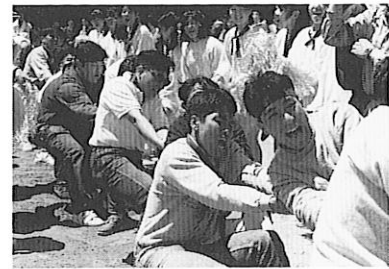
つかの間の春休みも終わる頃、2日間の卒業式参列で晴れて無事卒業となった先輩方を送り、いよいよ6月の四連へ向けての始動の時、そう春合宿である。今年は奈良県吉野山翠山荘八木屋で、6日間“くうねるうたう”の毎日が始まった。特に今回は40回記念の四連、それも日本の誇るマエストロ小林研一郎先生の指揮&超難曲の『繩文』という事もある、本来は適度な緊張感のある合宿も、かつて経験した事のない現代音楽の世界と不協和音、そしてリズム(あ〜こんなほんまにできるんかいな)に頭が切れそうになる者も続出。しかし、7拍子をたたくと天下一の指揮による確実な練習のお蔭で何とか終了。そして最終日恒例のカルテット大会はボロボロの司会者チンちゃんの進行中、審査委員長の思いとは裏腹に、団員の投票の結果、写真のカルテットが優勝したのでした。(それにしては内桶のキリエと佐野のピアノ独奏は良かった、良かった。)



## ■新歓・オリエンテーション 4月2日～6日8

さあ春だ! 新歓期間だ!! そろいのブレザーを着た一見体育系好青年を装ったグリーンメンが、これから始まるであろうバラ色の大学生活に胸をときめかす新生に襲いかかる。が、多くは、テニスややりたいだの、女がいないだの、練習が多すぎるだの、軟弱なことばかり言って、我々と共に、あまりにも充実した、素晴らしいことをしようという気骨ある若者がきわめて少ない。こうして滞った上回生のストレスは、連夜にわたり開かれた夕食会で、2回生をいたぶることで解消されるのである。そして宴も最高潮に達した頃、我々は、入部をしるる新生に最後の攻撃を仕掛けるのであった。そして、ただ飯・ただ酒を当てて来たかわい新入生は酔い加減もいい具合で、我々の“入れコール”の大合唱に快く返事するのである。(翌日、事の重大さに気付き、筆者へ電話する者も少なくはなかったが……) こうして、今年も優秀な部員を獲得することに成功したのであった。【Bari.2 辻】

## ■六連運動会 5月3日 (大坂城公園)



六連運動会。それは、5月3日恒例の関西合唱界ビッグイベント!! うたう若者たちが大坂城公園Aグラウンドに集い、自団の名誉と栄光のため競い合った。前夜から、5月にしては異常な気温の低さと吹きすさぶ北風のなか、寒さに凍えながらグラウンドに野宿した六連マネのしきりで開幕。たよりない大会委員長M田の思いとは裏腹に、パブニング続出でございました。競技のほうは、近年圧倒的なパワーの違いをみせつける綱引き、そして番狂わせで騎馬戦でも優勝! 応援女子大の神戸女子大学コーラス部のみんなの活躍もあり、これは完全な勝ちパターンや! と皆が思ったのに、得点集計のマジックに泣いて2位。うん、でも楽しい一日だったよ。来年また頑張ろう。お弁当までつくって応援してくれた神戸女子大学コーラス部の皆さん、ありがとう。

## ■京都合唱祭 6月2日 (京都会館)

アメン。最後のnの響きがホールに吸い込まれ、京都会館第一ホールはあたかも敬虔な信者たちに埋め尽くされたサン=ピエトロ大聖堂(どこぞそりゃ)の如く荘厳な空気に包まれた。デュオパの“グローリア”は信者たちの神に捧げるまさに“祈り”となり、聴衆と共に至福の瞬間をわかちあえたのだ。

その日は朝から雨が古都京都を潤していた。午後に行われた仮装大会ではN條が舞台上で「もういやじゃ!」と絶叫する場面もあったが、当時世間を騒がせていたタイムリーなネタで見事、浅井敬壹賞を獲得したのだ。 (嘘です。そんなもんじゃないが!)

その後行われたパートコンパ・鴨川公演も盛況に終わった。但し、荒れ狂う鴨川を前に渡河は中止(延期?)となった。でも一回生は横を流れる川(?)に果敢に飛び込んでいた。(君らにはまけた……) 【Seq.2 森下】



## ■第40回記念東西四大学合唱演奏会・大阪公演 6月16日 (フェスティバルホール)



今年の東西四連は第40回記念ということもあり、東京・大阪で公演があった。我々同志社グリーンクラブは数ある男声合唱曲の中でも難曲といわれる「繩文(男声合唱とピアノのための)」に取り組み、あの小林研一郎先生の指揮の下で見事に独自の音楽を創造する事が出来た。ステージに乗る迄の不安は嘘のように、演奏終了後は、充足感と興奮が全身を包み込んだ。その感動は今なお部員一人一人の胸にさめることのない大きな収穫として輝き続けている。また、合同演奏では北村協一先生の指揮で男声合唱組曲「御誦」を演奏し我が同志社グリーンクラブの副幹事長Uが、お得意のヴィブラートで独唱してしまった。まあ、早稲田・慶應・同志社・関西学院、いずれの団もそれぞれに持ち味を生かして心に残る、いい演奏会になったと思う。さすがに40回記念はいつもと違ったというのが偽らざる実感である。【Bari.3 神前】

## ■第40回記念東西四大学合唱演奏会・東京公演 6月22日 (東京文化会館)

今年は、40回記念演奏会ということで、東京・大阪の両地で開催された。2回生になってやっと四連に出れる、ということだけでも嬉しいのに、東京・大阪で歌えるおまけつきで、大喜びだった。また、指揮者は小林研一郎先生。陽ちゃん先生の棒で歌うことが出来なかったのは本当に残念だったけど、何ととっても世界のコバケンである。こんな機会は滅多にない。いい時に入部してよかったと、感慨深かった。

東京文化会館。1週間前、フェスティバルホールで大成功をおさめ、再び練習を重ね、遂にここまでやってきた。思えば春合宿からこの一曲と合同曲ばかりを練習してきて、ここまで来たのである。これでもう歌うことはないだろうなと思うと、少し寂しい。

最後のハミングがホールに溶け込み、全くの静寂。指揮者の緊張が緩むと同時に押し寄せた拍手の波は、客席もステージも無く大きな満足感となってホールを包み込んだに違いない。 【Top.2 福田】



## ■祇園祭 7月17日



旅情あふれる古都・京都。数多くお祭りが行われますが、やはり京のお祭りといったらコレですよ、コレ。祇園祭。そのクライマックスである17日の山鉾巡行に、グリーンクラブはいつのころからか毎年太子山の曳き手として参加しています。今ではすっかりクラブの恒例の行事として定着し、みんな楽しみにしています。ちょうど試験期間であるこの時期、試験より祭りのほうを優先させる部員も後を絶ちません。ただ、ちょっとばかり衣装が小さく、ちょっと大柄な人には苦しいかも。(がんばれ、ぶーやん)

山鉾巡行に出発する前に、山の前でうたう「斎太郎節」も恒例となっており、太子山町のみなさんもこれを楽しみにしておられます。

祇園祭に参加することは、アルバイトではありませんが、グリーンメンにとって楽しくそして貴重な体験です。太子山のみなさん、来年もどうぞよろしくおねがいします。

## ■夏期演奏旅行 7月31日 (金沢)

演奏旅行は、関西において活動している私達の演奏を他地域の皆様にお聞かせすることの出来る大切な活動として、毎年夏に行われています。7月31日の夕べ、石川県金沢市の金沢市文化ホールに、私達の爽やかな歌声がきわたりました。なんといってもこの日は、4月に入部してからまだ間もない1回生の初舞台なのです。出演前の彼らの緊張ぶりはひと際でした。真新しいステージコートに身を包み(この日から我が団のステージコートは黄から白に布地が変わりました)、まだ色あせない新品のバインダーを手に、夢中になって歌っていました。ソリストF田(2回生)の歌詞チョンボ事件、故郷に錦を飾るために指揮台にまで上がって挨拶して、舞台と客席全体を引かせてしまったN野(3回生)の「感無量ソロ(?)」など、ハプニングも絶えませんでした。金沢の皆様と音楽を通して本当に心地よい交わりを持つことが出来ました。金沢の皆様、お世話になり、有り難うございました。 【Top.3 村上】

## ■夏合宿 9月12日 (志賀高原)

外ではどこか他のサークルがキャピキャピとテニスなどをやっている中で、我々は外出禁止。1日10時間、ひたすら歌い、歌い、歌い、食って、寝る。これの繰り返しですわ。このナチス・ドイツの様なストイックな生活の中からも楽しみを見出して行くのが人間、いやグリーンメンの得意なところ。畑中先生をお迎えしての練習もあって、盛り下がっていく旅館の食事とは裏腹に、雰囲気は最高に盛り上がり、全員「ブラームスがお好き」とばかりに頑張った。

最終日、グリーの夏合宿といえばやはり×××だろう。その名も国際秘宝館の如く神秘のベールに包まれている×××。教えてあげましょうか。いや、ああ、でも僕は言いたい。言いたいんだけど、ここはあえて次の言葉でごまかしてしまおう。

—— pacem (平和) ——

無事終えて、本当によかった。

【Top.2 伊藤】

## ■合コン・合ハイ



平日のほとんどが練習という我々グリーンメンにとって楽しみにしているのは、何といてもOFFの日でしょう。そのOFFの日を潰してまでも、女の子と話をするためならばと集まってくる者は多いのです。だされた料理に手を出さず、ひたすら話に夢中になっている者もいるにはいます。(そりゃ、お前や) ところが、やはりグリーンメン、女の子とろくに話をしたことのない者がかなり多いのも事実。何を話していいやら、とまどっている姿もよくみかけます。(うん、うん、俺みたいにシャイなやつが多いんだね。by チーフ)

女子大の皆さん、そんなグリーンメンもいますが、合コンは我々にとって最高の息抜きなのです。これからもよろしくお願ひします。 【Bass.2 打田】

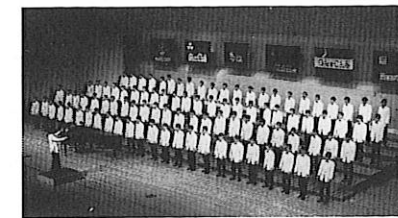
■「皇帝ティトの慈悲」 10月23日 (いづみホール)

行ってきました、クリストファー・ホグウッド率いるエンシェント・ミュージック管弦楽団の「皇帝ティトの慈悲」に。学指揮のNg島さん曰く、モーツァルトを振れば世界でも一、二位の名コンビだと宣うておられました、正直、私は、そんなに差があるんかいなと思っていた。で、いざ「ホグちゃん」(非常に親しみのある紳士であったので無礼にもこう呼んでいた)とエンシェントの合同練習に出向いたわけだが、この日は私にはそんなに凄くは感じられなかったが、いざ本番当日になると、まったく音が違うのである。これこそが世界の音楽なのだ若輩者の私にも解ってしまった。この世界の音楽に触れたことは、我がグリークラブにとって大きな収穫であり、今後の活動へ様々な形で影響を及ぼすであろうことは疑いなく、我々を大きく飛躍させてくれるであろうと思う私である。ホンマかいな? (by珍平) 【Sec.3 井上】



クリストファー・ホグウッドをかこんで

■第18回関西六大学合唱演奏会 11月3日 (フェスティバルホール)



♪晴れ時々たかじん、瞳閉じてイマジン、うがいはしっかりイソジン…♪風邪が気になる秋真っ只中、世間では文化の日といわれる11月3日は、我々にとっては毎年“ろくれん”の日である。“ろくれん”は『日本酪農共同組合連合会』の略であることは周知であるが、“ろくれん”とは『関西六大学合唱演奏会』の略だとは業界人以外は気づきまい。ともかくこの日、我々同志社グリークラブは単独ステージにおいて難曲「青いメッセージ」を、合唱界の申し子、いい演奏の為ならいつでも死ぬると豪語する永島健一の指揮、そして、長田育忠先生のピアノで熱唱。観客を感動の渦へ呑み込みに引き込み、みえる芸術と、みえない芸術の渾然一体の結晶を、その瞬間垣間見せたのであった。また、合同演奏においては作曲家多田武彦先生御自らの指揮により「富士山」を演奏。春の六連運動会での醜悪な世俗的確執を超越し、六大学の野郎共数百人は心を一つに名演奏を見事昇華させたのであった。 【Sec.3 勝田】

■大久保先生をかこむ会

ヴォイストレーナーとして、私共に情熱あふれるご指導をしてくださる大久保先生。先生の練習には常に笑いが絶えません。しかしそのユーモラスな中にも厳しさと、音楽に対するおもいがあふれているのです。日頃お世話になっている大久保先生をかこんで、楽しいひとときを過ごす「大久保先生をかこむ会」も回を重ね、恒例のものとなっています。先生、これからもご指導よろしくお願ひします。



■オーディション

ステージにのるための最大の難関、それがオーディションです。この時期になると、なかなか眠れなくなる部員も多いのでは? 目の下のクマと仲良しの毎日が延々続くのです。いやあ～身も心も冬の日々だねえ。うん、でも栄光のステージはもうスグ。がんばろう!

■第87回同志社グリークラブ定期演奏会 12月18日 (ザ・シンフォニーホール)

今宵は一年中で最も感慨深い夜。この一年、いや、合唱をはじめから今日までに身につけたものの集大成のステージ。それに、このメンバーでのれる定期演奏会は、今宵が最初で最後です。悔いは残したくありません。思い出に残る、素晴らしいステージにしようと、部員93名、今日まで頑張ってきました。その成果を、是非、ご来場の皆様にお見せたいと思っております。どうか、最後まで、私共がうたにこめますメッセージをお受けとりください。本日は、ご来場くださりましてありがとうございました。

■全同志社メサイア演奏会 12月25日 (京都会館第一ホール)

京都の年末を飾る演奏会として、市民の方々の間にすっかり定着した感のある「全同志社メサイア演奏会」も今回で27回目を迎えます。

今年は、指揮者に山下一史先生をお呼びして、12月25日(水)に京都会館第一ホールにて催されます。全同志社とつだけあって、同志社グリークラブ、同志社女子大学メサイア研究会、同志社交響楽団の三団体が一体となって行きます。この三団体の演奏が一つになった時につくりだされる音楽空間は、きっと貴方の心をすばらしい思いで満たしてくれることと思います。

ありふれたクリスマスではなく、たまには遠い昔のイエスの生誕に想いを馳せることのできる、クリスマスの夜を過ごしたい貴方をお待ちしております。(なお、一般公募での参加もどしどし募集していますので、よろしくお願ひします。) 【Bari.2 佐々木】



■総会

総会とは、幹事長、内政、指揮者等、クラブ内の役職人事を決定する、我が同志社グリークラブの重要な年中行事の一つである。総会で開始時には、夏合宿以来のクラブソングが歌われ、会議室全体に神聖で荘厳な雰囲気が漂う。役職に就きたい者は、部員の前で所信表明をし、投票の過半数以上を獲得しなければならない。私は、この総会を初めて経験した一回生の時、学生だけで運営してゆくクラブ活動の厳しさを知った。そして、日頃の練習の態度がしっかりしていないと部員の信頼を得られないのだと感じた。そしてさらに、この伝統あるクラブが、現在も活発に活動を続けてゆけるのも、部員全員が真剣に議論を交わす総会があるからなのだと感じた。したがって、このような神聖な場である総会が行われる当日、「今日は総会やなあ…」 「ああ、そうかい」等という腑抜けた駄ジャレを言う者には、「アホか! ケツかいんじゃ!」と怒鳴りつけたくなるのは、私と木村だけであろうか。 【Bari.3 内桶】 (お前だけじゃ! by1、2、3 回生一同)

■フェアウェルコンサート 2月15日 (同志社大学学生会館ホール)

フェアウェル…卒団生が4年間のグリーライフにサヨナラを告げ、人生の新しいステージへと旅立ってゆく学生生活最後の演奏会。最後の式典では、楽しかった事、苦しかった事、いろいろな思い出が頭を駆け巡るのか、卒団生は皆、目に涙を浮かべ、ある者はワンワン泣きじゃくる。そんな卒団生を見て、情に厚く涙もろい僕は、お世話になった先輩方との別れに嘆き悲しみ、昨年も一昨年も、マジで号泣してしまっただけ。しかし、今年は違う。今年の4回生が卒団すれば、ついに俺の時代が来るのだ。3年間の苦渋に満ちた日々からついに抜け出せるのだ。長かったなあ…。思えば1回生の夏あたりから殴られ、蹴られ…。俺もよく耐えたなあ…。自分で自分を誉めてやりたいよ。力いっぱい自分に拍手を送りたいよ。そうだ!! この日は俺の記念日にしよう。家に帰ったら家族と共に祝杯を挙げよう! 俺の新しい人生への門出を祝って。ああ楽しみだなあ。あと2ヵ月か。待ち遠しいなあ。はやく来い来いフェアウェルコンサート!! 【某3回生匿名希望】



東西四連

6.28 (日)

於・フェスティバルホール

0720-58-5465 かわさき 0798-52-6471 関西学院グリークラブホール



# 我々は来年ヨーロッパへ旅立つ!

グリーライフ四年間の内で、最大のイベントだった。来年度のヨーロッパ演奏旅行。今回は、イギリス・フランス、ドイツ、スイス・オーストリアの五カ国・七都市を歴訪するおもしろいことこの道の三週間。本場ヨーロッパ伝統の教会音楽を吸収しようというクラブ自体の目標は勿論のこと、観光面でも私個人的に燃えてます。例えば「ハーミタジ」だけでも、ユトリロが描いたモンマルトルの裏小路をぞろぞろ歩いたり、カフェでくろいんだり、オルセイヤルールの美術館巡りなどバリバリとついてもやりたいことばかりで困っちゃいます。誤解されてはいけないので付け加えておきますが、もちろん、本来の目的である「音楽」のほうでも燃えています。

## 同グリー近況報告

しめるは学生団長・内桶貴志  
実行副委員長・林 克己

そして最も楽しみにするのが  
この男!

三週間にわたってヨーロッパの人々に我々のうたを聴いてもらうのは、うれしい反面、大変こわいことだと不安になります。どれだけの音楽が受け入れられるのでしょうか。最終目的地のウィーンのフォルクスオパーでオペレッタ「メリウイドウ」を鑑賞するまで、いや、家に帰り着くまで、全く気が抜けない旅行になりそうです。

まあ、演奏旅行の成果は来年度の定期演奏会のパンフレットで詳しく紹介することになるかも。それまでお待ちくださいませ。とにかく頑張ってくださいませ。先生方、OBをはじめ関係者各位、JTBの方々、そして一般の皆様方、どうか御支援よろしくお願ひします。

【観光旅行マネ・松尾】

同グリーは5月20日、閑学グリーとともに、第四十回東西四連の宣伝を行うため朝日放送「おはよう朝日」に出演した。しかし、その中で、タレント小川恵理(21)が、ベースサブパトリ田中佳之(23)、「通称ぶーやん」に對し「さっさとさっさと質問をしたため当初の目的は達成されず、田中の独り舞台におわるという後味の悪い結果になって

その一・「おはよう朝日」出演!!  
ぶーやん、小川恵理の「そんなもんですか?」発言に激怒!!

## 同志社グリークラブ マスコミ界声覇!!

同志社グリークラブ  
第4回ヨーロッパ演奏旅行

日程および訪問国  
イギリス~フランス~ドイツ~スイス~オーストリア

小川は普段からベビーフフェイスに似合わず、ツッコミをすることで活躍中のタレントで、この日も演奏後、突然田中に向かって「一番低いバリトンの声を出して下さい」とインタビュー。これに對してもとアガリ症の田中は動揺してしまっただけで、普通の声を出してしまっただけ。小川はここぞとばかり

同グリーの快進撃はまだまだとどまらず、次は大手就職情報誌「JSCコーポレーション」に登場することがこのほど決定した。これにより、同グリー部員の就職は超売り手市場となり、各企業の壮絶な同グリー部員争奪戦が繰り広げられるとみられ、全国企業組合は、同グリー部員にドラフト制を適用する構えを見せている。

その三・「JSCコーポレーション」  
来年3月登場予定!!

「歌う体育会と呼んで下さい」  
「歌う体育会と呼んで下さい」  
「歌う体育会と呼んで下さい」

「歌う体育会と呼んで下さい」  
「歌う体育会と呼んで下さい」  
「歌う体育会と呼んで下さい」

しかし同志社学生新聞はのがす!!  
同志社大学最大手新聞「同志社学生新聞」の再三の取材攻勢要請にもかかわらず、同グリー外政・川崎武史(22)（仮名）がこれをブッチしていたことが、府警の調べで18日までに分かった。事態を重視した府警は「社会的責任が大きい」として川崎に対し、罰金二千元を課した。これにより同グリーは借しくもマスコミ界完全制覇は逃したが、しかし四大マスコミ中三つを制したことで、同グリーの勢いはこれまで以上に増すものと思われる。

# 可哀な犬

50円

小西、「静かにしろと言ったはずだ」  
で「満悦」  
13面

中野、ふたまた  
発覚!!  
6面

亘、チャント歌  
いますで大恥  
2面

# 氏の下宿を包囲!?

## セカンド、学指揮N氏に 犬攻撃

整紙が入手した情報によると、同志社グリークラブ学生指揮者N氏の日頃のセカンドへの集中攻撃を逆恨みしたセカンドメンバーは、何とかギャフンと言わせる方法を考えて、氏が犬嫌いであることに着目し、犬作戦を敢行中とのことである。その方法とは、まず動物愛護団体「犬だいきーず」の全面協力を得て、人なつっこい犬一千匹を無料で借り受け、氏の下宿するアパート「シャトー」周辺約三百Mを犬で包囲、氏をアパート内に釘付けにするという、壮大かつ卑劣な手段である。

一千匹の犬達は、バイオテクノロジーが生み出した

先日、セカンドサブパトリ小林啓さん(23)は、周囲の期待にたえ、ついに愛車ギャランで事故を起こした。宝が池プリンスホテルでのお座敷の掃りに起こった事故で、程度はパンパ

コバケイ・待望の事故!!  
「がへこむくらい軽いもの。小林さんも、同乗のK間さんとN野さんも、事故原因について、含み笑いを残すだけで多くを語らず、現在、全力をあげて調査中である。」



速報!  
四連単独、  
井上道義先生に!!

先頃、同スポ購読者の中から1万人を無作為にピックアップしてアンケートを行いました。その集計が終了しましたのでここに報告致します。皆様の再認識の助けになれば光栄です。(回収率78%)

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <b>【異国情緒】</b><br>1. 朝岡 (バズク)<br>2. 近藤 (トンガ)<br>3. 坂西 (モアイ)            | <b>【支店長】</b><br>1. 鐵見 (Bass.3)<br>2. 吉本 (Bari.4)<br>3. 該当者なし        | <b>【身長】</b><br>1. 小西 (205cm)<br>2. 南條 (187cm)<br>3. 神前 (185cm)    |
| <b>【カッコイイ】</b><br>1. 佐々木 (Bari.4)<br>2. 市ノ瀬 (Bass.2)<br>3. 坂野 (Sec.1) | <b>【濃い奴】</b><br>1. 中野 (Bass.3)<br>2. 小嶋 (Bari.1)<br>3. カシケイ (Sec.2) | <b>【胸毛】</b><br>1. 小倉 (Bari.3)<br>2. 小川 (Sec.3)<br>3. コバケイ (Sec.3) |

今年度平均的グリーメンに選ばれた  
ぶーやんさん  
「まあ、僕は平凡で普通ですから」  
(本人談)

なぜ、こう打たない。  
パチンコはこう打て!!  
パチプロ・加藤 賢一  
同グリー出版社

懸賞クイズ、〇〇をうめて下さい  
同志社の看板クラブは  
同志社〇〇-〇〇〇  
(ヒント)  
同志社グリークラブって何?  
抽選でフェアウェルコンサートに  
無料招待!

— 捜しています —  
ポメラニアン チビとラン

心当たりの方 前田まで

# SEKISUI

## 今年もワイワイやります。

毎年100名近い若手社員が参加するワイワイプロジェクト。本来の仕事とは違う研究テーマに挑戦し、成果は社長に直接提案。優れた内容なら、実現にむけて本格的に取り組んでいきます。コミニで紹介しているのは、そのメンバーの一部。自分の夢を実現させ

よう、今年もワイワイ張り切ってやっています。積水化学の新しい発想は、こうしたプロジェクトからも誕生してくるのです。面白くて、嬉しい。だから挑戦したい。



「パソコンソフトを創るのがテーマ」  
名古屋西大入会事務所 佐藤 孝一

「ハード関連事業」がテーマ  
「リソート関連事業」がテーマ  
「リソート関連事業」がテーマ  
「リソート関連事業」がテーマ

「セキスイの文化度を高めるがテーマ」  
財務部 西山 佳江

みんなをアッと驚かせよ発想で海外旅行も手に入れます！

環境問題に  
どつや、  
関わっていくか。  
これは私のライフワーク  
にするかもしれません。

入社2年目でも  
社長にアイデアを  
提案できるなんて  
なんだかワクワク  
しますね。

「山形環境問題関連事業」がテーマ  
総合研究所 岡本 博介

CHATEAUX (AUBUN)  
Tour des Sables (AUX LAISSEES)  
St. Georges (1788) pour Chateau  
de Versailles une face au sud

私達は今、ヨーロッパ旅行を  
楽しんでます。  
今年のYYプロジェクトに  
参加されるみなさん、  
ユニークな発想をぜひ海外へ  
飛び出して下さい。  
チームワークを大切に  
頑張ってくださいね。  
YYプロジェクト3-Aチーム一同

TO Miss KUMIKO  
MUSHINO

優勝チームへのプレゼントは  
メンバー全員の海外旅行です。

YYプロジェクトで賞状を受賞。  
昨年ヨーロッパに行ってきたチーム

新技術で21世紀をおもしろく。積水化学工業株式会社

私達スタッフは、皆様とのコミュニケーションを大切に実績ある技術で  
今宵のコンサートのテープ制作を担当しております。



**OKA** VIDEO & DIGITAL RECORDING  
SOUNDSTUDIO サウンドスタジオ O K A

ビデオテープ・LPレコード・オリジナルカセットテープ 企画・製作 〒602 京都市上京区寺町通今出川上る5  
企画・製作 〒602 京都市上京区寺町通今出川上る5丁目 鶴山町7 TEL 075 (256) 3656

あなたの街の玉姫殿

♡好き♡、と言ってから勝負。



あわい恋が  
あまい愛に色ずいたら...

梅田 玉姫殿  
大阪市北区鶴野町4-16  
TEL (06) 374-3333(代)





アイデアと技術で情報産業を担う

双林印刷社

〒601 京都市南区新千本通十条下ル TEL 681-7748(代)

— 男声合唱の魅力をお楽しみ下さい —

第60回 関西学院グリークラブリサイタル

1991年1月25日(土) 神戸文化ホール大ホール

1992年1月26日(日) フェスティバルホール

指揮：林雄一郎・畑中良輔・北村協一・土井賢志(学生)

お問い合わせ：関西学院グリークラブホール ☎ 0798(52)6471



神戸女学院大学コーラス部第32回定期演奏会

I. MISSA BREVIS

作曲/W. A. Mozart

II. 女声合唱組曲「時が語ってくれたこと」

作詩/片岡 輝 作曲/高嶋みどり

III. ミュージカル「コーラスライン」より

IV. 女声合唱組曲「心の四季」

作詩/吉野 弘 作曲/高田 三郎

1992年2月29日(土) 開場5:00 開演5:30

尼崎市総合文化センターアルカイクホール

<連絡先> 酒井美幸 (0726) 96-4564

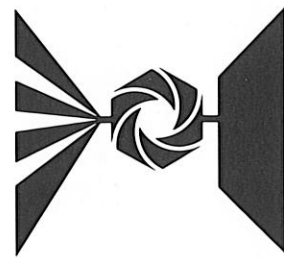
きらめく瞬間を  
未来に伝えたい。

好きなことをしている時、  
感激で胸がいっぱいになった時、  
誰もが、とってもいい顔をしています。

あなたの記念すべきその時を、あなたの素敵にきらめくその一瞬を、私達はのがしません。

未来に残す素敵な記念写真をお届けするために、いつもいっしょうけんめいの

大阪フォトサービスです。



OSAKA PHOTO SERVICE

株式会社 大阪フォトサービス  
〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17  
TEL. (06) 443-7608(代表)  
FAX. (06) 443-4437

FREE WAY  
フリーウェイ



日本教育旅行

☎ 075(351)0405

文化系 体育系 テニス  
サークルどんなクラブでも  
合宿のことなら  
日本教育旅行に  
ど〜ん とお任せ下さいませ。



京都市下京区下珠数屋町通東洞院東入  
日本教育旅行株式会社  
☎ 075(351)0405

同志社グリーンクラブ

名誉顧問/遠藤 彰

顧問/澁谷 昭彦

ヴォイストレーナー/大久保昭男

幹事長 風隼 武博
副幹事長 内桶 貴志
内政 山田 学
サブ政 木村 拓郎
外政 朝日 健次
西浦 泰郎
佐々木 博
田村 常喜
前田 勝視
川崎 武史
朝間 智昭
打田 俊明
辻 健三郎
ステージサブ 松井良太郎
勝田 恒次
産賀 伸一
会計 小西 拓也
サブ 中井 規之
周藤 真
加藤 善彦
岩本 光司
伊藤 豪史郎

演奏旅行 上谷 潔
サブ 林 克己
竹内 秀樹
坂西 成和
鐵見 太郎
近藤 博和
堀 博
池田 保則
谷本 啓
佐野 泰弘
朝岡 基雄
松尾 敏之
佐々木 道哉
奥村 建

学生指揮者 永島 健一
学生副指揮者 村上 哲夫
Top-Part-Leader 岸間 昭一
サブ 播磨 剛
Sec-Part-Leader 吉野 暢人
サブ 小林 啓
Bari-Part-Leader 吉本 昌史
サブ 神前 和正
Bass-Part-Leader 松本 亮介
サブ 田中 佳之

TOP TENOR

岸間 昭一 (商4) 北野
山田 学 (文4) 前橋
林 克己 (文3) 山城
村上 哲夫 (法3) 同志社香里
伊藤豪史郎 (商2) 藤島
岡 勇蔵 (商2) 明善
川島 伸規 (商1) 浪速
植村 祐介 (法1) 北千里

西浦 泰郎 (商4) 丸亀
吉田 正久 (文4) 西南学院
川崎 武史 (経3) 長尾
朝間 智昭 (商2) 南山
三村 剛司 (法2) 高槻北
山田 憲成 (経2) 名大附属
小林 武弘 (工1) 龍野

上谷 潔 (工4) 三原東
播磨 剛 (法3) 東大津
松尾 敏之 (法3) 佐世保南
福田 研二 (工2) 桐蔭
中村 義行 (経2) 島本
東 光彦 (商1) 函館ラ・サール
森 俊樹 (文1) 金岡

SECOND TENOR

吉野 暢人 (商4) 桃山学院
小林 啓 (商3) 洛星
加藤 善彦 (工3) 岡崎北
周藤 真 (法3) 同志社国際
国寄 康則 (工2) 北千里
南條 崇 (工2) 今治西
川西 裕之 (商1) 関西大倉
高岸 宏次 (文1) 天白

加藤 賢一 (法4) 北筑
朝岡 基雄 (経3) 岡崎
勝田 恒次 (法3) 大津
田村 常喜 (神3) 名古屋学院
森下 貴夫 (法2) 貿易学院
人見 幸明 (法1) 西乙訓
松田 寅 (法1) 大手前
亘 幸洋 (工1) 県立伊丹

中井 規之 (工4) 高槻
井上 建司 (文3) 阪南大学高
小川 剛 (法3) 洛北
鹿島 啓 (文2) 新川
村田 知彦 (工2) 御影
岩佐 圭記 (法1) 堀川
坂野 友紀 (法1) 沼津東

BARITONE

吉本 昌史 (法4) 山口
坂西 成和 (経4) 市立伊丹
木村 拓郎 (法3) 北嵯峨
内桶 貴志 (経3) 浦和市立
佐々木道哉 (法2) 豊岡
辻 健三郎 (経2) 岐阜
荒川 剛 (法1) 同志社香里
小寺 康治 (商1) 松山東
梅田 充 (法1) 鳳

風隼 武博 (商4) 栃木
佐々木 博 (文4) 大洲
前田 勝視 (経3) 佐賀西
藤川 淳史 (工2) 同志社香里
竹内 秀樹 (経2) 大分上野丘
八尋 秋彦 (法2) 洛北
土井 邦康 (経1) 東海大仰星
小嶋 徹 (法1) 岡崎
吉武 晃 (工1) 福岡県立京都

松井良太郎 (工4) 浜松北
神前 和正 (商3) 泉陽
小倉 嘉夫 (文3) 池田
近藤 博和 (工2) 明和
谷本 啓 (商2) 新見
山口 弘 (工2) 四条暖
長谷川宏志 (法1) 総社南
久保田義臣 (文1) 九州国際大附属

BASS

松本 亮介 (工4) 同志社
小西 拓也 (商4) 東大津
池田 保則 (法3) 東大津
浅海 誠 (法2) 天王寺
三原 卓 (工2) 京教大附属
産賀 伸一 (法2) 落合
三島 晃 (工1) 岐阜
白川 行宏 (経1) 国府

朝日 健次 (法4) 津山
永島 健一 (文4) 松山
中野 泰秀 (商3) 小松
市之瀬 崇 (経2) 名古屋北
奥村 建 (工2) 平塚江南
打田 俊明 (文2) 久居
迫 謙祐 (法1) 北野

堀 博 (法4) 菊里
田中 佳之 (商3) 乙訓
鐵見 太郎 (工3) 同志社香里
岩本 光司 (工2) 春日丘
佐野 泰弘 (法2) 春日丘
吉田 泰典 (法2) 市立銚子
佐藤 嘉和 (文1) 東農大二

第87回同志社グリーンクラブ定期演奏会 OB協賛芳名録

今回の定期演奏会の開催にあたり、下記の先輩方の協賛を頂きました。誌上ではございますが、この場にて厚く御礼申し上げます。

同志社グリーンクラブ

Table with columns for graduation year (e.g., 大正15年卒, 昭和3年卒), name, and other details. Includes names like 生田 定一, 油谷 栄, 荒井 清, etc.

(敬称略)



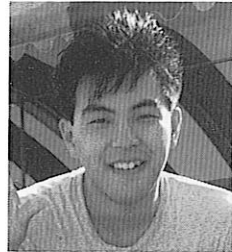
# Special Thanks

## 《編集後記》

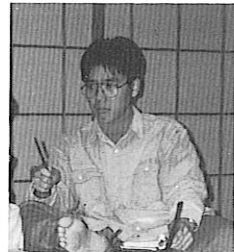
田村 常喜



前田 勝視



川崎 武史



Special Thanks  
to Jesus Christ.

これまでになく充実した1991年。  
のんびりやで寂しがりやの僕をささ  
えてくれた皆さん、ありがとうございます。  
いました。

飄々とマイペースでやれた。  
みんなに感謝。

最後になりましたが、このパンフレット制作にあたり、快く原稿依頼に応じて下さった諸先生方、広告主の皆様、双林印刷の山田様、その他、当演奏会の開催に御尽力下さいました関係者各位、そして本日御来場いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

今後とも、同志社グリークラブを宜しくお願い申し上げます。

1991年 12月

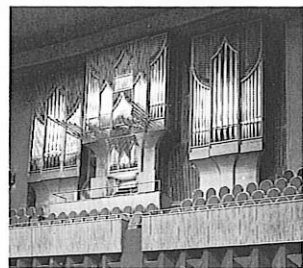
同志社グリークラブ  
マネージャー 同



## The Symphony Hall

なにかが変わる。  
予感が聴こえる。

- グランド・ホワイエ  
中央に吹き抜けを持つ二層の優美な空間。  
音楽へと続くプロムナードです。展示会や小  
さな集会もできます。
- アリーナ・シアター  
残響2秒、ピロードの響きがすべての席を覆  
いつくし、ステージと客席は一つに溶けあ  
います。
- オルガン  
スイス・クーン社製。54ストップ。オルガン  
を使う楽曲が理想の姿で演奏できます。



ザ・シンフォニーホール  
**ABC**

〒531-01 大阪市北区大淀南2丁目

ご利用のお問合せ  
06-453-1010  
入場券のお問合せ  
06-453-6000

縫めいて、女めいて。アルマ。



# ALMA

MISAKI SHOJI CO.,LTD.

Tokyo Office/Pola Aoyama Bldg., 7fl. 2-5-17, Minami Aoyama, Minato-ku, Tokyo. Phone:03-3403-4371  
Osaka Office/Nihon Seimei Midosuji Bldg, 5fl., 4-2-4, Minami Semba, Chuo-ku, Osaka. Phone:06-251-1171